

鹿児島県埋蔵文化財調査報告書 (33)

**国分・隼人テクノポリス建設地区
埋蔵文化財分布調査報告書**

— 昭和 59 年度 —

1985年3月

鹿児島県教育委員会

序 文

始良地区の埋蔵文化財については、昭和36年度に全県的な遺跡分布調査の一環として、遺跡の分布調査を行ったところです。

しかし、その後、新しく発見された遺跡も多数にのぼり、さらに、「国分隼人テクノポリス建設地区」構想の発表もあって、遺跡等埋蔵文化財のより精密な分布状況の把握が必要となってきました。

鹿児島県教育委員会では、こうした事情を考慮して、昭和59年度から3か年計画で始良地区の埋蔵文化財分布調査を実施することとし、本年度は1市3町（国分市、隼人町、福山町、霧島町）について分布調査を実施しました。

その結果、新たに89か所の遺跡を発見しました。

本年度調査を実施した地域は、旧大隅国の国府や国分寺の所在したところとして注目されているところです。本書が、この地域の文化財保護のために活用されることを願ってやみません。

終わりに、調査に御協力いただいた関係市町教育委員会並びに関係者の皆さんに心から感謝いたします。

昭和60年3月

鹿児島県教育委員会

教育長 山田克穂

例 言

- 1, 本報告書は, 昭和59年度に実施した国分・隼人テクノポリス建設地区埋蔵文化財分布調査の報告書である。
- 2, 調査の組織は経過のなかで記した。
- 3, 遺物の実測・写真等は執筆者が分担して行った。
- 4, 本書の執筆は次の通りで, 編集は吉永・井ノ上が分担して行った。
第1章, 第2章第1・3節, 吉永
第2章第2・4節, 井ノ上
- 5 本書に用いた遺物番号は, 通し番号を付し, 挿図・図版の番号とは一致する。
- 6, 別図市町別遺跡分布地図には, 現在「市町村別遺跡分布地図」を作成中であるため, 今回新たに発見されたもののみを示した。したがって, 周知の遺跡については, 本年度作成した「市町村別遺跡地名表」を参照されたい。

目 次

序	
例 言	
第1章 調査の経過	7
第1節 調査に至るまでの経過	7
第2節 調査の組織	7
第3節 調査の経過	8
第2章 各市町管内の分布調査	9
第1節 国分市管内の分布調査	9
第2節 隼人町管内の分布調査	17
第3節 福山町管内の分布調査	26
第4節 霧島町管内の分布調査	42

表 目 次

第1表 国分市管内の遺跡一覧	16
第2表 隼人町管内の遺跡一覧	24
第3表 福山町管内の遺跡一覧	41
第4表 霧島町管内の遺跡一覧	43

挿 図 目 次

第1図 内野々遺跡採集遺物…………… 9	第21図 上村遺跡採集遺物— 2…………… 28
第2図 桃ヶ迫・星熊原遺跡採集遺物…10	第22図 ゝ — 3…………… 28
第3図 立山原遺跡採集遺物…………… 11	第23図 城ヶ尾遺跡採集遺物…………… 29
第4図 竹下遺跡採集遺物…………… 12	第24図 前原遺跡採集遺物…………… 29
第5図 鷹原遺跡採集遺物…………… 13	第25図 栗ノ脇遺跡採集遺物…………… 30
第6図 上野原地区採集遺物…………… 14	第26図 赤松段遺跡採集遺物…………… 30
第7図 塚脇C 遺跡採集遺物…………… 15	第27図 一本松遺跡採集遺物— 1…………… 31
第8図 竹渡B 遺跡採集遺物…………… 16	第28図 ゝ — 2…………… 32
第9図 藤熊遺跡採集遺物…………… 18	第29図 ゝ — 3…………… 33
第10図 長迫遺跡採集遺物…………… 18	第30図 ゝ — 4…………… 34
第11図 格木原遺跡採集遺物…………… 19	第31図 花建原遺跡採集遺物…………… 35
第12図 小牧遺跡採集遺物…………… 19	第32図 鳥越遺跡採集遺物— 1…………… 36
第13図 上里遺跡採集遺物…………… 19	第33図 ゝ — 2…………… 37
第14図 梅木迫遺跡採集遺物…………… 20	第34図 ゝ — 3…………… 38
第15図 梅ヶ迫遺跡採集遺物— 1…………… 20	第35図 ゝ — 4…………… 39
第16図 ゝ — 2…………… 20	第36図 柴立遺跡採集遺物…………… 40
第17図 春花田遺跡採集遺物— 1…………… 22	第37図 中ノ段・諏訪段・持手木 遺跡採集遺物…………… 40
第18図 ゝ — 2…………… 23	第38図 松ヶ原遺跡採集遺物…………… 43
第19図 真孝遺跡採集遺物…………… 24	第39図 王子原遺跡採集遺物…………… 43
第20図 上村遺跡採集遺物— 1…………… 27	

図 版 目 次

図版1 春山原地区遠景・立山原遺跡遠景45	図版10 採集遺物(6)……………54
図版2 上ノ原地区遠景・春花田遺跡遠景46	図版11 採集遺物(7)……………55
図版3 梅ヶ迫遺跡遠景・上村遺跡近景…47	図版12 採集遺物(8)……………50
図版4 一本松遺跡近景・馬越遺跡近景…48	図版13 採集遺物(9)……………57
図版5 王子原遺跡近景・採集遺物(1)……49	図版14 採集遺物(10)……………58
図版6 採集遺物(2)……………50	図版15 採集遺物(11)……………59
図版7 採集遺物(3)……………51	図版16 採集遺物(12)……………60
図版8 採集遺物(4)……………52	図版16 採集遺物(13)……………61
図版9 採集遺物(5)……………53	

第1章 調査の経過

第1節 調査に至るまでの経過

昭和57年3月に、「80年代の通産政策ビジョン」として、「通産産業政策のあり方」に関する産業構造審議会の答申が行われ、昭和58年7月には「テクノポリス法（高度技術工業集積地開発促進法）」が施行された。

この新しい地域開発構想が通産産業省から発表されると、多くの自治体が関心を寄せ、昭和58年度に全国で14の地域が条件付きで指定された。本県では、鹿児島市を母都市とし、国分・隼人地区を中心とした2市12町が対象地区となった。

テクノポリス構想の対象地区となった姶良地区では、昭和36年度に「鹿児島県遺跡分布調査」の一環として分布調査が実施されている。その後も多くの遺跡が発見され、九州縦貫自動車道の建設に際し、事前に発掘調査された遺跡も少なくない。

そこで、県教育委員会ではテクノポリス構想の事業推進と文化財保護との調和を図るため、事前に2市12町の全域を対象とした分布調査を昭和59年度から3ヶ年計画で実施することとなった。

調査にあたっては、文化庁全国遺跡分布調査要項（庁保記94号昭和46年4月22日）に準拠し、埋蔵文化財を中心に分布調査を行った。調査は悉皆調査を基本に行った。

本年度は、国分市・隼人町・福山町・霧島町の1市3町を対象地区とし、昭和59年5月7日から6月29日までの8週間実施し、新しい遺跡の発見に努めた。

第2節 調査の組織

調査主体者	鹿児島県教育委員会	教育長	山田 克穂
調査責任者	鹿児島県教育委員会	文化課長	桑原 一廣
	〃	課長補佐	本田 武郎（昭和59年4月まで）
	〃	〃	坂口 肇（昭和59年5月から）
	〃	主 幹	中村 文夫
調査企画	〃	主任文化財研究員	諏訪 昭千代（昭和59年9月まで）
	〃	〃	向山 勝貞（昭和59年9月から）
調査者	〃	文化財研究員	吉永 正史
	〃	主 事	井ノ上 秀文
調査事務	〃	管理係長	寺園 晃
		主 査	濱松 巖（昭和59年9月から）
		主 事	畑 征治（昭和59年8月13日まで）
		〃	田中 孝子

第3節 調査の経過

分布調査は昭和59年5月7日から6月29日までの2ヶ月間実施し、その後整理・報告作成作業を行った。分布調査の経過は日誌抄として以下略述する。

- 5月7日 分布調査の開始。関係市町へ協力を要請する。
 - 9日 国分市管内の調査を始める。上野原地区の調査。
 - 10日 上野原，川原，芦谷，平野原，白蔵原各地区の調査。
 - 11日 平山，黒石，平野原，木原，牧内各地区の調査。
 - 14日 朴木，塚脇地区の調査。
 - 17日 須川原地区の調査。
 - 18日 塚脇，春山原地区の調査。
 - 21～24日 春山原地区の調査。
 - 25日 隼人町管内の調査を始める。野久美田地区の調査。
 - 28日 小田，真考，住吉地区の調査。
 - 29日 嘉例川，十三塚，西光寺，上野各地区の調査。
 - 30日 上野，住吉地区の調査。
 - 6月1日 小牧，小浜地区の調査。
 - 4日～5日 野久美田地区の調査。
 - 6日 野久美田，小浜，里各地区の調査。
 - 7日 住吉，姫城地区の調査。
 - 11日 福山町管内の調査を始める。池ノ段，比曾木野各地区の調査。
 - 12日 大屋敷，和田地区の調査。
 - 14日 供養元地区の調査。
 - 15日 佳例川，内場，一本松各地区の調査。
 - 19日 牧ノ原，牧野，立元，池田，柴建各地区の調査。
 - 20日 牧ノ原地区の調査。
 - 21日 新原，川路原，杉渡，大水溜，国師各地区の調査。
 - 22日 池谷地区の調査。
 - 25日 霧島町管内の調査を始める。牧神地区の調査。
 - 26日 梅ノ木，大窪地区の調査。
 - 28日 堂ヶ迫，入水地区の調査。
 - 29日 道具等の搬出作業，調査を終了する。
- 霧島地区は雨のため目標の面積の調査を完了することができなかった。

第2章 各市町管内の分布調査

第1節 国分市管内の分布調査

国分市の調査は、昭和59年5月9日から5月24日まで実施した。

国分市は、鹿児島県のほぼ中央に位置し、東は福山町・財部町、北は霧島町、西は隼人町に接し、南は鹿児島湾に面している。地形は、市の西部を南流する天降川の支流手籠川、郡田川や広瀬川、検校川によって形成された国分平野と霧島山系のシラス台地とに大きく分けられる。台地末端部では河川等により開析された谷が複雑に入りこんでいる。

昭和52年に刊行された「鹿児島県市町村別遺跡地名表」には縄文遺跡2、弥生遺跡14、土師・須恵遺跡1、寺跡4、城跡8、古墳・石塔16等が記載されている。平椀貝塚は縄文時代前期の平椀式土器を出す標式遺跡であり、金銅製環頭太刀を出土した亀甲古墳や大隅国分寺跡（国指定史跡）、大隅国府跡等著名な遺跡も少なくない。

分布調査の結果、34の遺跡が新たに発見された。

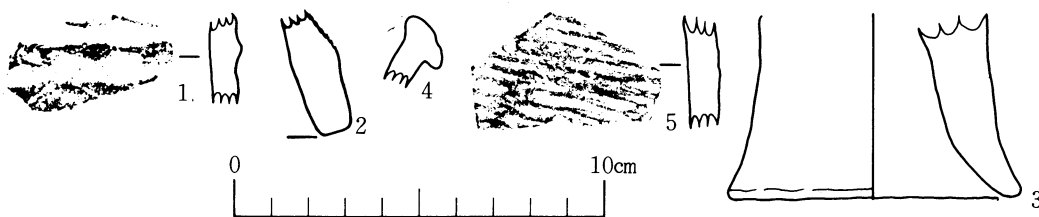
1 志明寺遺跡

国分市重久字志明寺にあり、標高230mの春山原台地の北東端部に位置する。遺跡の東側は急崖をなし、天降川の支流手籠川が南流している。台地は南西部へ広がり、内野々遺跡と接する。この遺跡からは成川式土器・土師器の小破片が採集された。地名表の志明寺遺跡(10—06)は霧島町に属し位置も多少離れた所にあることが判明した。

2 内野々遺跡

国分市重久字内野々・古外戸口・山田平・山神にあり、標高230mの春山原台地上に位置する。春山原台地は天降川の支流、北側の霧島川と南側の手籠川によりつくられた浸食谷により区分されており、急崖部には溶結凝灰岩（一部は第三紀層といわれる）が露出している。台地上はシラス台地で畑地として利用されている。基盤整備が行なわれており、台地の中央を南北に走る道路周辺は削平されているためか遺物はほとんどみられず、その両側に多くの遺物が広範囲にわたって散布している。遺物は縄文式土器、成川式土器、土師器、須恵器等があり、耕作の機械化に伴って破壊が進んでおり少破片が多かった。

1が成川式土器の貼り付け突帯を付した甕形土器の頸部片、2・3が脚部片である。4・5は須恵器片である。4は玉縁状口縁を呈する。



第1図 内野々遺跡採集遺物

3 牧神遺跡

国分市重久字牧神にあり、標高244~270mの須川原台地の最北東部に位置する。須川原台地

にはこの遺跡の他新開込、桃ヶ迫、星態原、自徳原、立山原とそれぞれ遺跡があり、霧島町と境界を接するところでもある。遺跡の東南側は急崖をなし天降川の支流郡田川が流れており、すぐ北側には牧神神社（霧島町に属す）があり、西側に県道2号線が走る。

遺跡には成川式土器や土師器の小破片が散布している。

4 新開込遺跡

国分市重久字新開込にあり、須川原台地の北東部に位置し、牧神遺跡の約600 m南側にある。遺跡の東側は小谷と接する。

遺跡には成川式土器の小破片が散布している。

5 桃ヶ迫遺跡

国分市重久字桃ヶ迫にあり、須川原台地がいったんすぼまる北部に位置し、新開込遺跡の約400 m南側にある。東側の急崖下の天降川の支流郡田川をはさんで台明寺文書で知られる旧台明寺跡がある。

遺跡には、成川式土器・土師器の散布がみられる。

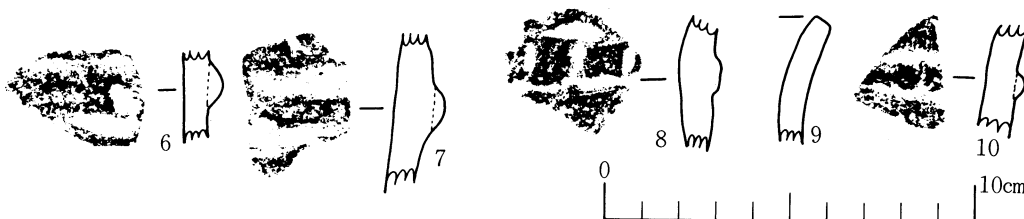
6～8は、成川式土器の貼り付け突帯を付した変形土器の頸部片である。8の突帯には斜位の刻みを付している。いずれも焼成は良く、茶褐色を呈する。

6 星態原遺跡

国分市重久字星態原・桃ヶ迫にあり、須川原台地の西側に位置し、桃ヶ迫遺跡の西約200 mにあたり、西側は急崖をもって天降川の支流手籠川に望み、南側には西からの小谷がある。

遺跡には成川式土器・土師器の破片がやや多量に散布しており、特に西部側に散布が集中し

9・10は成川式土器の甕形土器の破片である。9が口縁初片、10が貼り付け突帯を付す頸部片で、突帯より上位はカキあげ手法を残す。



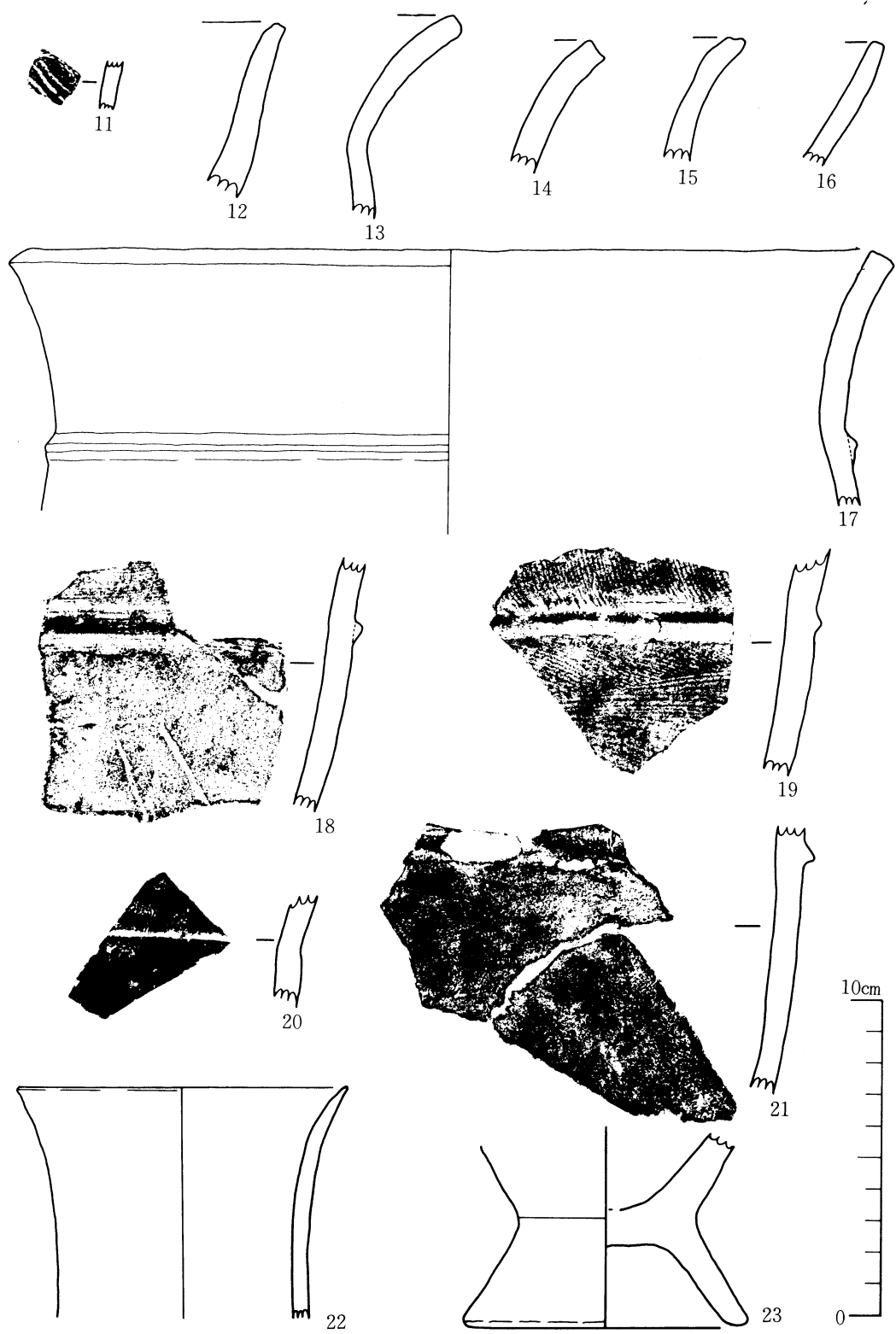
第2図 桃ヶ迫・星態原遺跡採集遺物

7 立山原遺跡

国分市重久字立山原にあり、須川原台地の南西部に位置する。西側は急崖をもって天降川の支流手籠川に接し、東は開析小谷と接す。

遺跡には、成川式土器片や弥生時代後期に属すると考えられる土器片や縄文式土器も少量散布している。破片の大きなものが集中して散乱している所もみつけられた。

11は燃糸文を施す縄文式土器片である。12～16が口縁部片で、13の内側には稜がみられる。17は口径28.2cmを測る甕形土器片である。頸部には、断面三角形の貼り付け突帯を付し、内面にはわずかに稜を残す。焼成は良し、茶褐色を呈している。18～21は胴部片で、三角形の貼り



第3図 立山原遺跡採集遺物

付け突帯を付している。22は長頸壺形土器の破片である。口径10.5cmを測る。焼成は良く、色調は淡茶褐色を呈する。23は甕形土器片で、脚裾径9.0 cmを測る。

8 自徳原遺跡

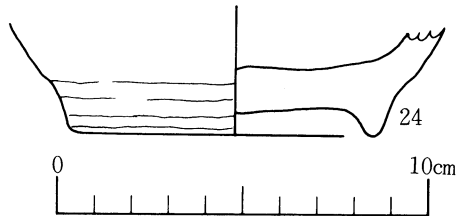
国分市重久字自徳原にあり、須川原台地の南東部に位置する。東側は急崖をもって天降川の支流郡田川に接し、小谷をはさんで西側の立山原遺跡と対峙する。

9 竹下遺跡

国分市姫城字竹下にあり、姫木城跡の東側の急崖下の国鉄日豊本線沿いの西側部分に位置する。

天降川支流の手籠川と郡田川の合流点近くでもある。

遺物は24の土師器の底部片が一点採集されたのみである。



第4図 竹下遺跡採集遺物

10 弥勒寺遺跡

国分市野口字弥勒寺にあり、天降川左岸の標高10mの低台地上に位置する。

遺跡には、成川式土器の破片が少量散布している。字名から寺跡のあったことがうかがえるところである。

11 猿喰遺跡

国分市上郡田字猿喰にあり、国分市の北部の牧内地区の西側に位置する。遺跡は標高290 mの台地上にあり、西側では急崖をなし、天降川の支流郡田川が南流する。

遺跡には、成川式土器の細片が散布している。

12 外戸前遺跡

国分市上郡田字外戸前にあり、国分市の北部の牧内地区の東側に位置する。猿喰遺跡の東約400mのところにあたる。

遺跡には成川式土器の破片が散布している。

13 前畑遺跡

国分市上郡田字前畑にあり、平野原台地の最北部にあたり、標高約300 mの木原地区の南側に位置する。遺跡の東側は検校川が南流する。遺跡付近は木原地区と隣接するところで、宅地化が進んでいる畑地帯である。

遺跡には、成川式土器、土師器、青磁等の破片の他磨石、黒曜石の破片等が散布しているが、採集品の中では図化できるものがなかった。

14 甚原遺跡

国分市上郡田字甚(ヶ)原にあり、平野原台地の北部に位置し、木原地区の南西約900 mのころにある。付近は平野原台地がいったんすぼまるところで、両側に急崖があり、東側では検校川が南流しており、西側では郡田川の支流永谷川が流れている。

遺跡には、成川式土器、土師器の細片が散布している。

15 茅落遺跡

国分市上郡田字茅落にあり、松ヶ野地区の西約500 mのところと位置する。標高約280 mの台地の端部で、西側は急崖をなし、検校川が南流している。

遺跡には、成川式土器の破片が散布している。

16 中平野遺跡

国分市上郡田字中平野にあり、南北に細長い平野原台地の中央部に位置する。遺跡の東西部は急崖をなしており、東に検校川、西に永谷川が流れている。

遺跡には、成川式土器片が散布している。

17 下外戸遺跡

国分市上郡田字下外戸にあり、南北に細長い平野原台地の中央部に位置し、中平野遺跡の南約500 mのところにある。

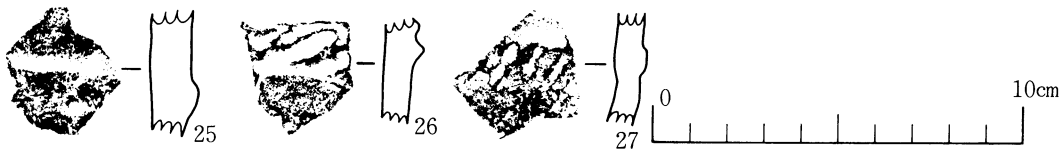
遺跡には、成川式土器の細片が散布している。

18 鷹原遺跡

国分市川原字鷹原にあり、南北に細長い平野原台地の南端部に位置する。東は検校川、西に芦谷川が流れている。急崖部には凝灰岩が露呈する。

遺跡には、成川式土器が散布している。

25～27は、成川式土器の甕形土器の貼り付け突帯を付した頸部片である。26・27の突帯には斜位の刻みを付している。



第5図 鷹原遺跡採集遺物

19 白蔵原遺跡

国分市川原字白蔵にあり、標高約210 mの狭小な白蔵原台地上に位置する。毛梨野地区の北約700 mのところとあり、東側に検校川の支流芦谷川が南流している。

遺跡には、成川式土器や土師器の破片が台地全体に散布している。

20 星合原遺跡

国分市川原字星合原にあり、国分市の北東部にそびえる黒石岳の南西側に延びる裾部の標高約320 mの台地上に位置する。遺跡の南西部には検校川の支流夕岸川の続く小谷が発達している。

遺跡には、成川式土器の破片が少量散布している。

21 樋脇遺跡

国分市上井字樋脇にあり、国鉄大隅線の銅田駅の北東700 mのところと位置する。遺跡の南

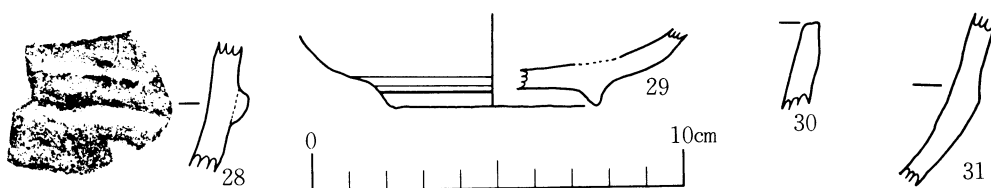
西約300 mのところには、縄文時代前期の標式土器・平椀式土器を出土した平椀貝塚があり、前面には検校川によって形成された沖積平野が広がっている。

遺跡からは、成川式土器や土師器の破片が少量散布している。

22 鍋迫遺跡

国分市川内字鍋迫にあり、敷根地区の北側に広がる上野原台地の北辺部の北へ舌状に延びる台地末端部に位置する。遺跡のさらに北側は西流する検校川の支流鎮守尾川により開析された谷が入り込んでいる。

遺跡には、縄文時代晩期の土器、成川式土器の破片の他に黒曜石の破片も散布しており、国道10号線沿の後川内集落から上野原台地に登りつめた位置の西側部では密な散布状況を呈するところもあるが、小破片が中心で図化できるものは少なく2点のみであった。



第6図 上野原地区（堂ヶ迫・鍋迫遺跡）採集遺物

23 堂ヶ尾遺跡

国分市川内字堂ヶ尾にあり、上野原台地のほぼ中央の標高約260 mのところの位置する。

遺跡には成川式土器片が散布している。

28は、甕形土器の突帯を付した土器片である。胎土に砂粒を含み焼成は良い。色調は外面淡茶褐色、内面茶褐色を呈する。29は染付磁器の底部片である。見込底に草花文を呉須で描く、高台径5.8 cmのものである。

24 水ヶ迫遺跡

国分市上之段字水ヶ迫にある。

25 中原遺跡

国分市上之段字中原にある。

26 藤ヶ尾遺跡

国分市上之段字藤ヶ尾にある。

27 後川内遺跡

国分市上之段字後川内にある。

28 東原遺跡

国分市上之段字東原にある。

以上24～28の5ヶ所の遺跡は、上野原台地の中央より東部側にそれぞれ点在しているものであり、それぞれ近い距離にあるため抱括できる可能性をもつが、とりあえず個々に遺跡名を付した。

遺跡には、それぞれ成川式土器や土師器の破片が少量散布している。

29 大王坂遺跡

国分市敷根字大王坂にあり、旧敷根小学校跡地の東約400 mの所に位置する。遺跡の背後は上野原台地があるが急崖をなしている。

遺跡には、土師器や青磁の破片が少量散布している。

30 堂ノ原遺跡

国分市上之段字堂ノ原にあり、敷根畜産試験場の西約2.3 kmに位置し、標高約300 mの舌状台地の端部にある。北側には鎮守尾川の支流高橋川が西流しており、遺跡との比高差は約60mである。

遺跡には、成川式土器の破片が少量散布している。

31 椎渥原遺跡

国分市上之段字椎屋原にあり、敷根畜産試験場の西約2.5 kmのところのところに位置し、堂ヶ原遺跡の南約400 mのところにある。台地の中央部に位置し、国道10号線が南約100 mのところにある。この付近は、表土下にボラ層（噴出源桜島）の堆積がみられる。

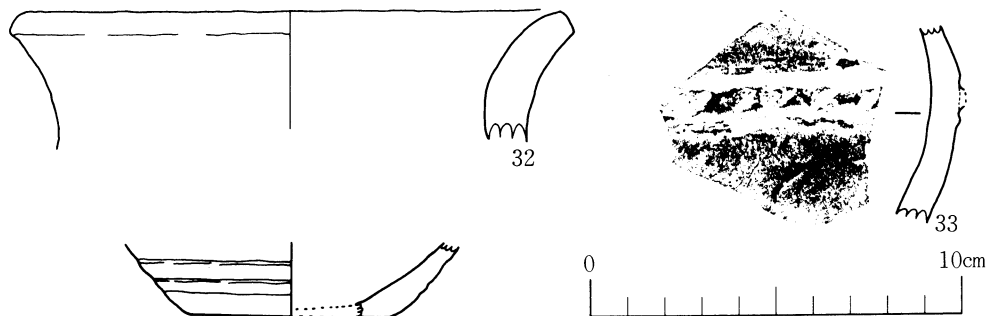
遺跡には、縄文時代後・晩期に属すると考えられる破片が散布している。

32 塚脇C遺跡

国分市上之段字塚脇にあり、塚脇小学校の東約500 mのところのところに位置し、塚脇A遺跡の南約300 mのところである。塚脇A遺跡は周知の遺跡（10-04）であり、抱括できるものであろう。

遺跡には、成川式土器・土師器・縄文土器片が少量散布している。

32が成川式の甕形土器の口縁部片、33が成川式の胴部片である。34は土師器の杯である。



第7図 塚脇C遺跡採集遺物

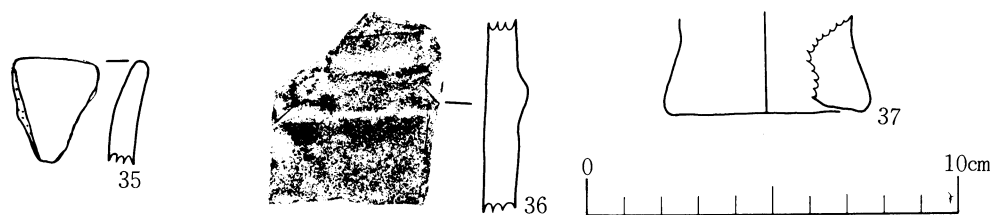
33 竹渡A遺跡

国分市上之段字竹渡にあり、塚脇小学校の南約400 mのところのところに位置し、舌状に延びた台地の基部にあたる。標高は約400 m。谷をへだてた南側には福山町の牧之原台地が広がる。

遺跡には、成川式土器・土師器・須恵器の小破片が散布している。

34 竹渡B遺跡

国分市上之段字竹渡にあり、塚脇小学校の南約700 mのところのところに位置し、舌状に延びる台地



第8図 竹渡B遺跡採集遺物

の端部にある。竹渡A遺跡とは300m程度の距離にあり、一括できる可能性をもつが別記しておく。

遺跡には、成川式土器・土師器・縄文式土器の小破片が散布している。

35～37は成川式土器の甕形土器の破片である。37は貼り付け突帯を付している。茶褐色を呈する。37は脚部片で小形のものである。

第1表 国分市管内の遺跡一覧—1

No	遺跡名	所在地	時代	遺物	備考
1	志明寺	国分市大字重久小字志明寺	古墳	成川式土器・土師器	
2	内野々	〃 〃 小字内野々	縄文・古墳 ～歴史	縄文式土器・成川式土器・土師器・須恵器	
3	牧神	〃 〃 小字牧神	古墳	成川式土器・土師器	
4	新開込	〃 〃 小字新開込	〃	成川式土器	
5	桃ヶ迫	〃 〃 小字桃ヶ迫	〃	成川式土器・土師器	
6	星熊原	〃 〃 小字星熊原・桃ヶ迫	〃	〃 〃	やや密な散布
7	立山原	〃 〃 小字立山原	弥生後期～古墳	〃	やや破片大が密に散布
8	自徳原	〃 〃 小字自徳原	古墳	成川式土器・土師器	
9	竹下	〃 大字姫城小字竹下	古墳～歴史	土師器	
10	弥勒寺	〃 大字野口小字弥勒寺	〃	成川式土器・土師器	
11	猿喰	〃 大字上郡田小字猿喰	古墳	成川式土器	
12	外戸前	〃 〃 小字外戸前	〃	〃	
13	前畑	〃 〃 小字前畑	古墳～歴史	成川式土器・土師器 青磁・磨石・黒曜石	
14	甚原	〃 〃 小字甚原	古墳	成川式土器・土師器	
15	茅落	〃 〃 小字茅落	〃	成川式土器	
16	中平野	〃 〃 小字中平野	〃	〃	
17	下外戸	〃 〃 小字下外戸	〃	〃	
18	鷹原	〃 大字川原小字鷹原	〃	〃	
19	白蔵原	〃 〃 小字白蔵原	〃	成川式土器・土師器	
20	星合原	〃 〃 小字星合原			

国分市管内遺跡一覧

No	遺跡名	所在地	時代	遺物	備考
21	樋脇	国分市大字上井小字樋脇	古墳	成川式土器・土師器	
22	鍋迫	〃 大字川内小字鍋迫	縄文・古墳	縄文式土器・成川式土器・黒曜石	
23	堂ヶ尾	〃 〃 小字堂ヶ尾	古墳	式川式土器	
24	水ヶ迫	〃 大字上之段小字水ヶ迫	〃	成川式土器・土師器	
25	中原	小字中原	〃	〃	
26	藤ヶ尾	小字藤ヶ尾	〃	〃	
27	後川内	小字後川内	〃	〃	
28	東原	小字東原	〃	〃	
29	大王坂	〃 大字敷根小字大王坂	古墳～歴史	土師器・青磁	
30	堂ヶ原	〃 大字上之段小字堂ヶ原	古墳	成川式土器	
31	椎渥原	〃 〃 小字椎渥原	縄文	縄文後～晩期土器	
32	塚脇C	〃 〃 小字塚脇	縄文・古墳	縄文式土器・成川式土器土師器	
33	竹渡A	〃 〃 小字竹渡	古墳	成川式土器・土師器・須恵器	
34	竹渡C	〃 〃 〃	縄文・古墳	縄文式土器・成川式土器・土師器	

第2節 隼人町内の分布調査

隼人町の調査は昭和59年5月25日から6月8日まで実施した。

隼人町は鹿児島県のほぼ中央、鹿児島湾の最奥部に位置しており、東は国分市・霧島町、西は溝辺町・加治木町、北は横川町・牧園町と接し南は鹿児島湾に面している。

町北部は霧島山系からのびる台地が入りくんだ複雑な地形で、この台地を浸食しながら嘉例川、霧島川、西光寺川が流れ、東西約5km、南北約16kmと南北に細長い町内をほぼ南北に流れる天降川に合流している。天降川は町南部の下流で沖積平野（国分平野）を形成して鹿児島湾へ注いでいる。

この国分平野は早くからひらけており、隣接する国分市には大隅国の国府・国分寺がおかれまた隼人町大字内山田字五ノ坪・同八ノ坪、大字小田字六ノ坪の地名が残っており条里制の痕跡もうかがい知ることができる。

町内の遺跡は昭和52年の『鹿児島県市町村別遺跡地名表』によると、縄文時代1、弥生時代7、土師器・須恵器を出土する遺跡3、他に板碑等のある古墓1が知られている。これらの遺跡の中で昭和45年に鹿児島空港内の十三塚原第一地点、昭和49、50年には九州縦貫道関係の西免・中尾・入道の各遺跡、昭和56年隼人塚団地内の小田遺跡の発掘調査が行なわれそれぞれ成

果をあげている。また隼人駅の南西約600 mの地点には古代隼人の霊を弔ったと伝えられる隼人塚も存在する。

1 岩井戸遺跡

隼人町嘉例川字岩井戸にあり、標高約150 mの台地の先端部の畑である。台地の西側眼下には嘉例川が流れ、これと平行して国鉄肥薩線が走っており、嘉例川駅が西側約400 mのところにある。遺物は成川式土器を採集した。

2 東原A遺跡

隼人町嘉例川字東原にあり、標高約250 mの台地先端部の畑に位置する。台地の西側を嘉例川が、東側を天降川が流れている。遺物は黒曜石、成川式土器、土師器を採集した。

3 東原B遺跡

隼人町嘉例川字東原にあり、東原A遺跡のある台地から南東にのびる台地の先端に位置し、東原A遺跡から約300 m離れている。遺物は縄文土器を数点採集した。時期は不明である。

4 後原遺跡

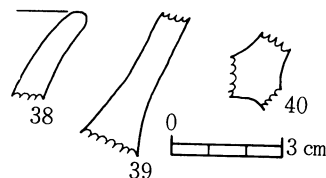
隼人町松永字後原、麻芋迫あり、標高約220 mの台地に位置する。国分市、隼人町、霧島町にまたがる春山原台地は今回の分布調査の結果そのほとんどが遺跡であることが確認されたが、その遺跡郡の中で唯一隼人町に所在する遺跡であり、台地の北西端部に位置する。遺物は成川式土器と少量の土師器を採集した。

5 桂坂遺跡

隼人町松永字桂坂にあり、標高約220 mの南へのびる台地に位置する。すぐ横には隼人町養豚肥育センターがあり、遺跡の現況は畑地である。遺物は成川式土器を採集した。

6 藤熊遺跡

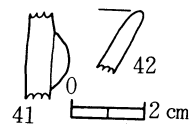
隼人町松永字藤熊にあり、標高約60 mの独立した丘陵上に位置する。西側眼下に平熊の集落を望み、東側は高約100 mのところを日豊本線が南北に走る。遺物は成川式土器を採集した。第9図38は成川式土器の甕形土器の口縁部である。39は甕形土器の底部近くの破片である。40は小形の甕形土器の底部で脚のつくものである。



第9図 藤熊遺跡採集遺物

7 長迫遺跡

隼人町嘉例川字長迫、下原、同西光寺字東原、草葉にあり、十三塚原台地の東南端に位置している。遺物は時期不明の縄文土器数点、成川式土器、土師器を採集した。第10図41は成川式土器の壺の破片で突帯の部分である。42は土師器の杯あるいは碗の口縁部破片である。



第10図 長迫遺跡
採集遺物

8 立迫遺跡

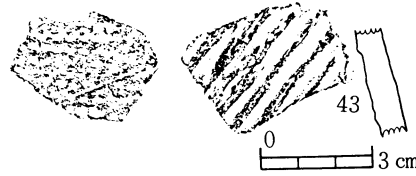
隼人町西光寺字立迫にあり、十三塚原台地の縁辺部で長迫遺跡の南方約500 mに位置し、標高約260 mの畑である。ここでは成川式土器を採集した。

9 大迫遺跡

隼人町西光寺字大迫にあり、長迫遺跡、大迫遺跡と同様に十三塚原台地の縁辺部に位置している。主要地方道鹿児島空港線が台地に登ったところにある糸走の集落の北側約100mの地で、標高は約250mである。成川式土器、土師器を採集した。

10 格木原遺跡

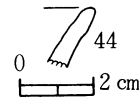
隼人町内字格木原、前村中、後村中、中原、下中原、中落上、中島にあり東にのびる台地の基部に位置し、標高は約230~240mである。遺跡の北側は西光寺川が流れ、西は加治木町と接しており、中央部を県道崎森・隼人線が東西に走っている。遺跡は広範囲にわたっており、上野集落のほぼ全域とその外側の畑に遺物が分布している。遺物としては成川式土器、土師器、須恵器があった。第11図43は須恵器の甕の破片である。



第11図 格木原遺跡採集遺物

11 小牧遺跡

隼人町小浜字小牧、屋敷前、宮前、馬塚、立迫、長田、姥山、二重畑、一丁畑、山添にあり東、西、北は加治木町と接している。標高180~240mのほぼ独立した台地に位置し、台地のほぼ全域に遺物が分布している。この台地は東から西へゆるやかに傾斜している。遺物は黒曜石片、成川式土器、土師器を採集した。第12図44は土師器の杯あるいは碗の口縁部の破片である。



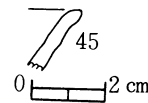
第12図 小牧遺跡採集遺物

12 坂下遺跡

隼人町小浜字坂下、二反田、西村、岩崎にあり、国道10号線が日豊本線と交互する地点の南側で、小浜の集落の西端に位置し、集落の中の畑に遺物が散布している。標高約10~20mで中央の低くなった部分を北西から南東に小川が流れている。遺物は黒曜石片、成川式土器、土師器等であった。

13 上里遺跡

隼人町小浜字上里にあり、小浜集落の中にあり、すぐ南側を国道10号線が走り、標高約20mの地点に位置している。遺物は時期不明の縄文土器と黒曜石片、成川式土器、土師器であった。第13図45は土師器の杯あるいは碗の口縁部の破片である。



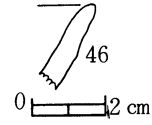
第13図 上里遺跡採集遺物

14 畠山遺跡

隼人町小浜字畠山、八反田にあり、日豊本線が遺跡のほぼ中央を東西に走り、小牧へ向う道が国道10号線から約400m北上した所で日豊本線と交差する地点に位置し、標高約10~20mの水田あるいは畑である。遺跡のほぼ中央部を福の川が北東から南西に流れている。遺物は成川式土器と土師器であった。

15 梅木迫遺跡

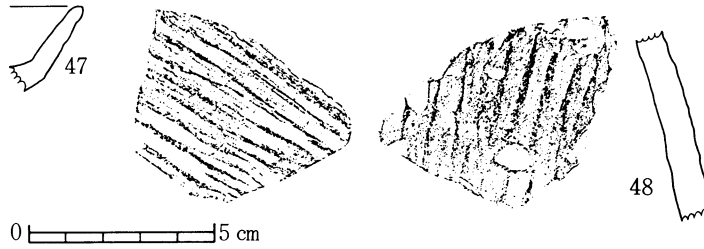
隼人町小田字梅木迫、新寺、三寺にあり、標高約40～50の台地の東側縁辺部に位置している。遺跡の東側を石元川がほぼ南北に流れている。遺物は黒曜石片1点と成川式土器、土師器数点であった。第14図46は土師器の杯あるいは碗の口縁部破片である。



第14図 梅木迫遺跡採集遺物

16 梅ヶ迫遺跡

隼人町小田字梅ヶ迫、高尾野、六ノ坪にあり、県道北永野田、小浜線が日豊本線と交差する地点の北西約200mの畑に位置する。標高30～

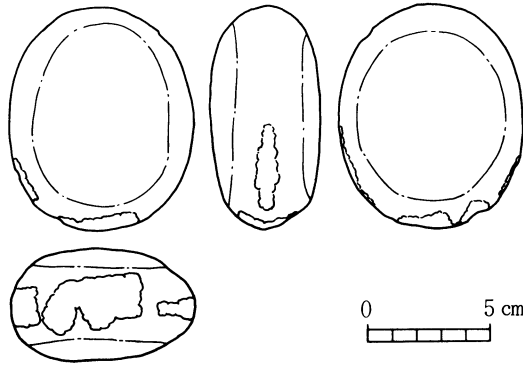


第15図 梅ヶ迫遺跡採集遺物(1)

40mの台地の先端部で遺跡の西側を流れる石元川をはさんで約150m離れた梅木迫遺跡と向かい合っている。遺跡の南西傾に隣接して県工業技術総合センターが建設中である。遺物は成川式土器、土師器、須恵器、石器等が発見された。第15図47は土師器の皿の破片である。48は須恵器の甕の破片である。第16図49は輝石安山岩を素材とした磨石、敲石の用途をもつ石器である。両面とも磨石として使用しており、側面に3ヶ所敲打痕が観察できる。

17 供養谷遺跡

隼人町小田字供養谷にあり、県道北永野田、小浜線の北約100mの中福良集落の畑の中に位置しており、標高は約20mである。遺跡の南西約100mのところの小野小学校がある。遺物としては成川式土器と土師器を採集した。



第16図 梅ヶ迫遺跡採集遺物(2)

18 国領畑遺跡

隼人町小田国領畑にあり、供養谷遺跡の南東約200mのところの位置しており、標高は約15～20mである。遺跡の中央を県道北永野田小浜線が東西に走っている。遺物としては成川式土器、土師器を採集した。

19 小菌田遺跡

隼人町小田字小菌田、辻ノ園にあり、県道北永野田・小浜線の南に広が水田のほぼ中央に位置している。標高約20mの微高地で、すぐ南側を日豊本線が東西に走っている。遺物としては成川式土器を採集した。

20 六反田遺跡

隼人町小田字六反田，小園田，辻ノ園にあり，小園田遺跡の南約150mに位置している。水田の中の微高地で，標高は約20mである。遺跡の南側を清水川が流れている。遺物としては成川式土器を少量採集した。

21 春花田遺跡

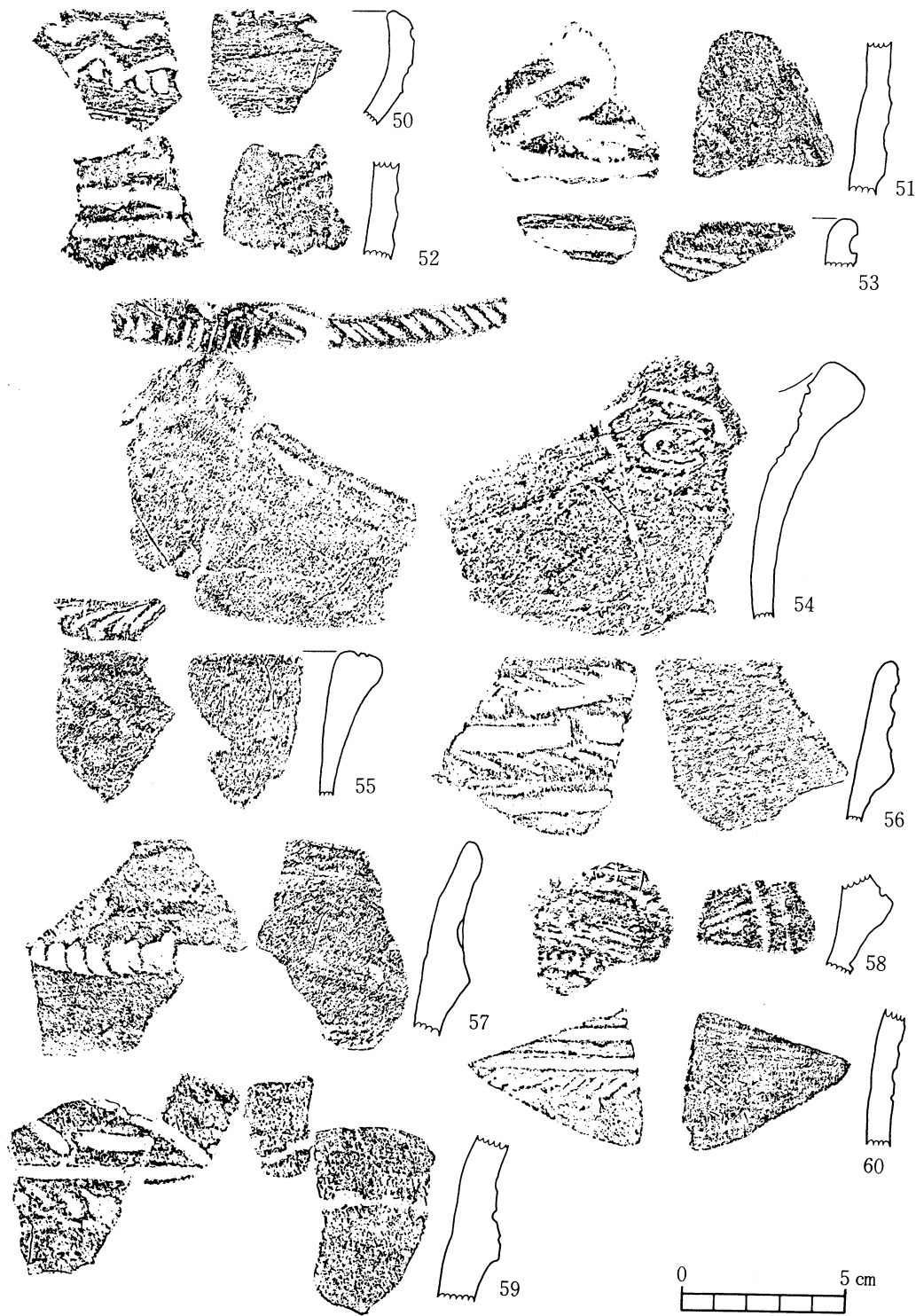
隼人町野久美田字春花田，柳田，迫田，森田，川原田，楠元，京田，石元，横枕，集りにあり，国分平野の西端部に位置している。東西に走る日豊本線と県道北永野田・小浜線が交叉する地点の南側に広がる標高約10～15mの微高地である。北東部を石元川が流れ，西側から南側は下川が流れている。この2つの川にはさまれた畑あるいは水田の中に広範囲に遺物が分布している。遺物としては多量の縄文土器及び黒曜石片，少量の成川式土器，土師器を採集した。縄文土器は後期のものがその大半を占める。第17図50は縄文前期後半に位置づけられている春日式土器で，キャリパー状の器形を呈し，文様は横位に2条の波状沈線文を施し，その下に凹点文を組合せたものである。色調は表裏とも黄褐色を呈し，胎土，焼成とも良好である。51～53は凹線文の土器で施文具は丸い棒状のものをを用いている。54は山形の口縁部の内面に渦状文を施し口唇部が肥厚し，そこにヘラ状のもので刻目文を施す。55は山形の口縁部では口唇部が肥厚し，刻目を施文する点は54と同様でいずれも後期の松山式に類似している。いずれも褐色を呈し，焼きがややもろい。56～59は口縁部の断面が三角状に肥厚し，その部分が文様帯となるもので後期の市来式土器である。56は肥厚部分に斜位の浅い沈線文を施し，その上から横位の太形凹線文を施している。57は木棒状のもので連続の押圧文を施す。59は横位と斜位の沈線文を組み合わせたものである。60は口縁部が肥厚しないが，文様等から市来式類似の土器と考えられる。61は復元口径30.2cmを計る深鉢形土器である。口縁部下に断面三角の突帯を一条貼り廻らしている。62は外反する深鉢形土器の口縁部片であり口唇部が肥厚している。文様は横位の平行沈線文が4条施されており，粘土板をはりつけその上に同心円文を描き，あるいは粘土を削りとり凸凹をつける装飾がなされている。63も62同様外反する深鉢形土器の破片で，外面に斜位の平行沈線文を施す。口唇部を延長する形で，あるいは真つすぐ上方に延びる方向に中凹みの円筒状の貼り付けを行い，この部分には縦位の短い平行沈線文を施している。62は黄褐色，63は褐色を呈している。64は山形の口縁部の破片で山形と平行に一条の沈線文を施し，これをはさんでほぼ直行するように両脇にヘラ状のもので短い平行沈線文を施している。65，66は磨消縄文を施した土器で，66は山形になる口縁部の破片である。67，68は底部で67は組織痕文がつく。69は内黒土師器の碗の口縁部の破片である。

22 有馬迫遺跡

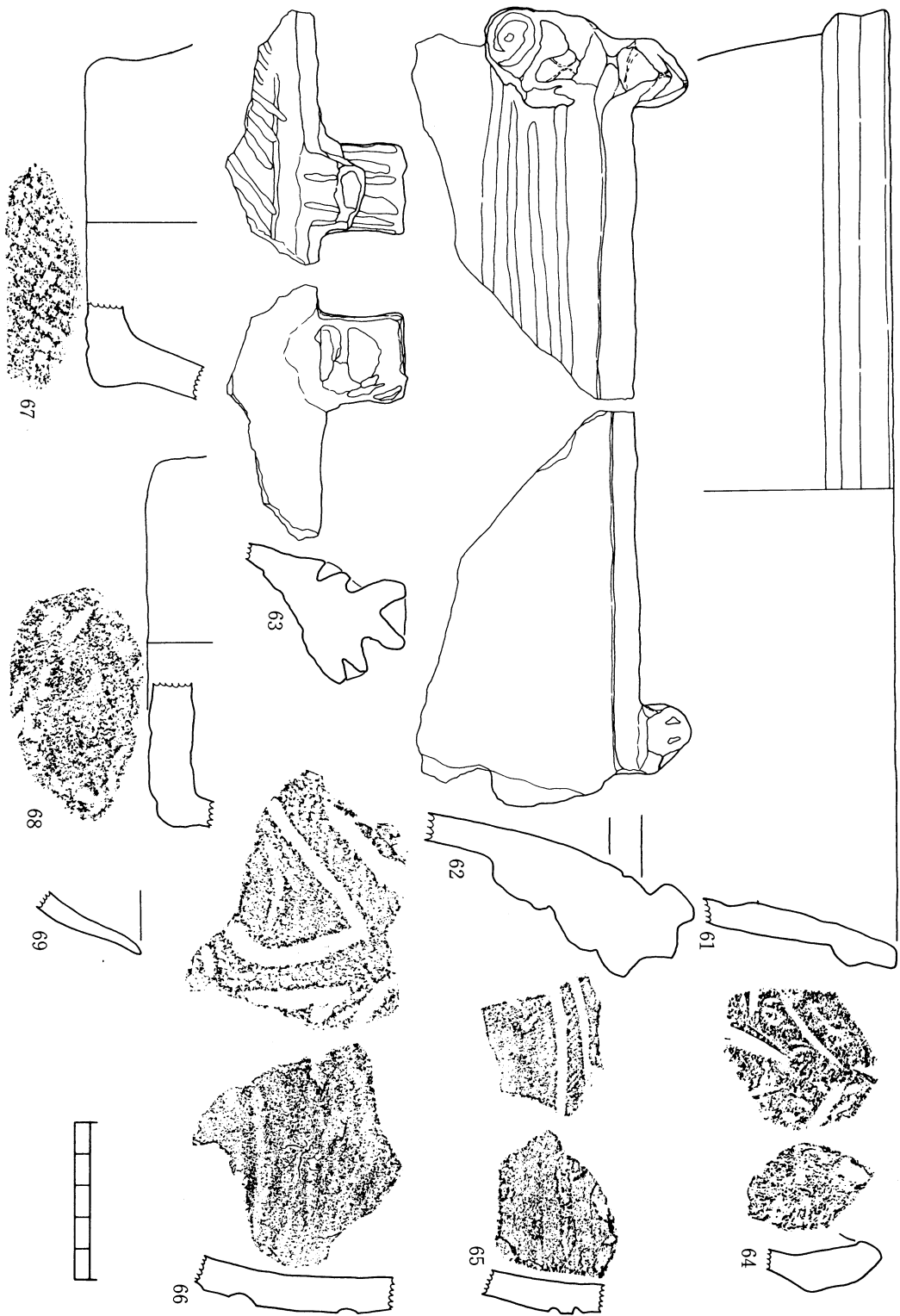
隼人町野久美田字有馬迫，二反田にあり，北側を流れる下川をはさんで春花田遺跡の南方約100mの地点に位置し，標高約10mの畑である。遺物としては成川式土器を少量採集した。

23 石田遺跡

隼人町野久美田字石田，園尾，二反田，永縁にあり，春花田遺跡の南方約150m，有馬迫遺



第17図 春花田遺跡採集遺物(1)



第18図 春花田遺跡採集遺物(2)

跡の東方約250 mの地点で、標高約10mの畑に位置している。遺跡の北側を下川が流れて、東側をほぼ南北に流れる清水川と合流する。遺物は黒曜石片、成川式土器、土師器を採集した。

24 柏木遺跡

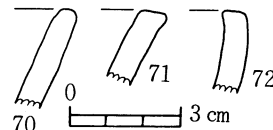
隼人町小田字柏木にあり、県営小田団地の西側に位置しており、標高約10mの畑である。遺物は成川式土器を少量採集した。

25 小田遺跡

隼人町小田字柳ヶ丸、迫田、塚後、上長田、下長田、座主田、木屋原、西迫田、一ノ坂、地藏原、夏越田、塚ノ下、上笛吹、塚原の合計14の字にまたがる広範囲に遺物が分布している。東側を笛吹川が流れ、西側、南側もそれぞれ小川が流れており、これらの川にはさまれた微高地に位置しており、標高は約10～15mである。遺跡のほぼ中央部を日豊本線が東西に走っている。遺跡の東側及び北側部分は隼人塚団地等にみられるように宅地化が進んでいるが、西側はそのほとんどが畑地である。昭和56年に発掘調査の行なわれた小田遺跡は今回確認した遺物の分布範囲のほぼ中央部に位置している。遺物はそのほとんどが成川式土器で、中に少量の土師器を採集した。

26 真孝遺跡

隼人町真孝字夏陰、高城、下林田、上林田、大宝、小大園、国見、西馬場、山王上、山王馬場、浜田上、西天井、東天井、池増、鋤先、中真考、東真考、大里、御里、宇都馬場、中馬場、大園、児玉馬場の合計23の字にまたがる地域に遺物の散布がみ



第19図 真孝遺跡採集遺物

られる。遺跡の東側を国道223号線が南北に走り、北側及び西側は清水川が流れている。標高は8～11mである。この遺跡はそのほとんどが宅地あるいは工場となっているがそれらの中の畑の中に遺物が分布している。遺物としては成川式土器、土師器を採集した。第19図70～71は成川式土器の甕形土器の口縁部破片である。

27 住吉遺跡

隼人町住吉字桜馬場、四方境、龍波見、御油田、石小積、西原にあり、標高約10～15mの畑に位置している。西側を国道223号線が南北に走り、東側は天降川まで約200 mの位置である。遺物としては成川式土器、土師器を採集した。

第2表 隼人町管内遺跡一覧

No	遺跡名	所在地	時代	遺物	備考
1	岩井戸	隼人町嘉例川字岩井戸	古墳	成川式土器	
2	東原A	〃 〃 東原	縄文・古墳	黒曜石、成川式土器、土師器	
3	東原B	〃 〃 〃	縄文	縄文土器	
4	後原	〃 松永字後原、麻芋迫	古墳～歴史	成川式土器、土師器	
5	桂坂	〃 〃 桂坂	古墳	成川式土器	

6	藤 熊	〃 〃 藤熊	古墳	成川式土器	
7	長 迫	〃 嘉例川字長迫, 下原外	縄文・成川 ～古墳	縄文土器, 成川式土器 土師器	
8	立 迫	〃 西光寺字立迫	古墳	成川式土器	
9	大 迫	〃 〃 大迫	古墳～歴史	成川式土器, 土師器	
10	格木原	〃 内字格木原, 前村中外	古墳～歴史	成川式土器, 土師器, 須恵器	
11	小 牧	〃 小浜字小牧, 屋敷前外	縄文, 古墳 ～歴史	黒曜石, 成川式土器, 土師器	
12	坂 下	〃 〃 坂下, 二反田外	縄文, 古墳 ～歴史	黒曜石, 成川式土器, 土師器	
13	上 里	〃 〃 上里	縄文・古墳 ～歴史	黒曜石, 成川式土器, 土師器	
14	畠 山	〃 〃 畠山, 八反田外	古墳～歴史	成川式土器, 土師器	
15	梅木迫	〃 小田字梅木迫, 新寺外	縄文・古墳 ～歴史	黒曜石, 成川式土器, 土師器	
16	梅ヶ迫	〃〃 〃 梅ヶ迫外	古墳～歴史	成川式土器, 土師器, 須恵器	
17	供養谷	〃 〃 供養谷	古墳～歴史	成川式土器, 土師器	
18	国領畑	〃 〃 国領畑	古墳～歴史	成川式土器, 土師器	
19	小 蘭田	〃〃 〃 小蘭田外	古墳	成川式土器	
20	六反田	〃 〃 六反田	古墳	成川式土器	
21	春花田	〃 野久美田字春花田外	縄文, 古墳 ～歴史	縄文土器 (春日式, 凹 線文土器, 市来式, 磨 消縄文外), 成川式土器 土師器	
22	有馬迫	〃 〃 有馬迫外	古墳	成川式土器	
23	石 田	隼人町野久美田字石田外	縄文・古墳 ～歴史	黒曜石, 成川式土器, 土師器	
24	柏 木	〃 小田字柏木	古墳	成川式土器	
25	小 田	〃 〃 柳ヶ丸, 迫田外	古墳～歴史	成川式土器, 土師器	
26	真 孝	〃 真孝字真陰 高城外	古墳～歴史	成川式土器, 土師器	
27	住 吉	〃 住吉字桜馬場	古墳～歴史	成川式土器, 土師器	

第3節 福山町管内の分布調査

福山町の調査は、昭和59年6月11日から6月22日まで実施した。

福山町は、鹿児島県のほぼ中央部で、大隅半島の基部の東側に位置し、東は財部町・末吉町・大隅町、南は垂水市・輝北町、北は国分市と接し、西は鹿児島湾に面している。地形は、断層崖が海に迫る南北に細長い海岸部の下場地区と、その崖上に広がる火山灰台地の上場地区とに大きく二分することができる。

昭和52年に刊行された「鹿児島県市町村別遺跡地名表」には縄文遺跡3、弥生遺跡5、寺跡3、城跡1、古墓1等が記載されている。大正7年、福山中学校（現福山高校）建設の際に多数の土器片（御領式土器、市来式土器・鐘ヶ崎式土器・指宿式土器等）が出土している。

分布調査の結果、20の遺跡が新たに発見された。

1 池ノ段遺跡

福山町佳例川字池ノ段・高松ヶ尾・中羽山にあり、福山町最北部の池之段地区に位置する。山間部に発達した緩斜面に立地しており、南側に比高差約20mの小谷を形成した前田川が東流している。

遺跡には、成川式土器の小破片が散布している。

2 イラケ谷遺跡

福山町佳例川字イラケ谷にあり、福山町最北部の池段地区の前田川が形成した小谷の南側台地に位置する。東へ延びる舌状台地に遺跡に立地し、南・北・東の三方に小谷がある。

遺跡には、縄文式土器や土師器の破片が散布している。

3、寺屋敷遺跡

福山町佳例川字寺屋敷にあり、福山町北部の池之段地区の南約500mのところを位置し、イラケ谷遺跡とは小谷をはさんで対峙し、大屋敷地区北側の舌状台地の基部にあたる。

遺跡には、縄文式土器や成川式土器の破片が少量散布する。

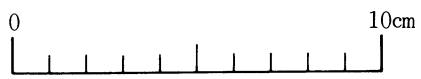
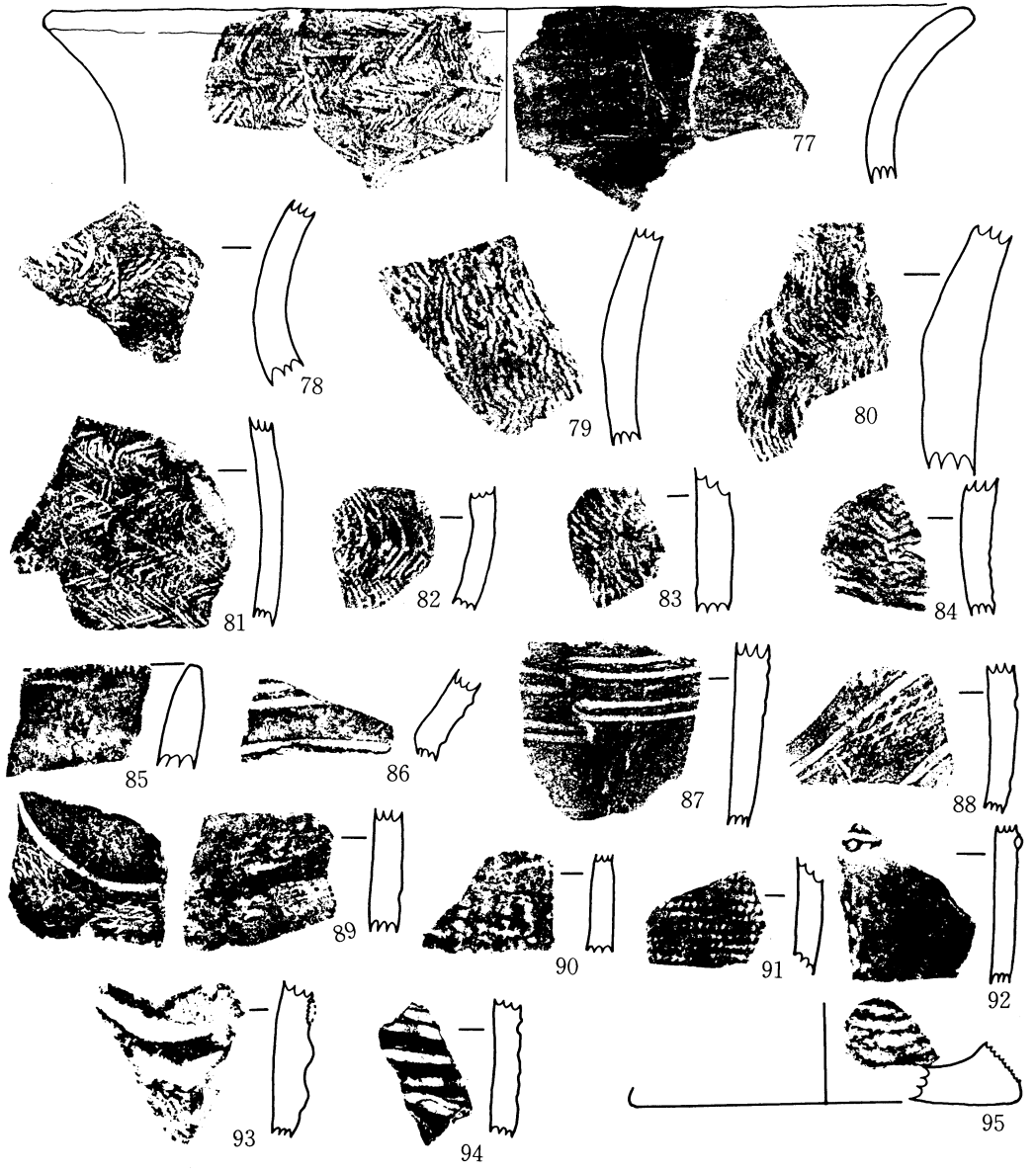
4、上村遺跡

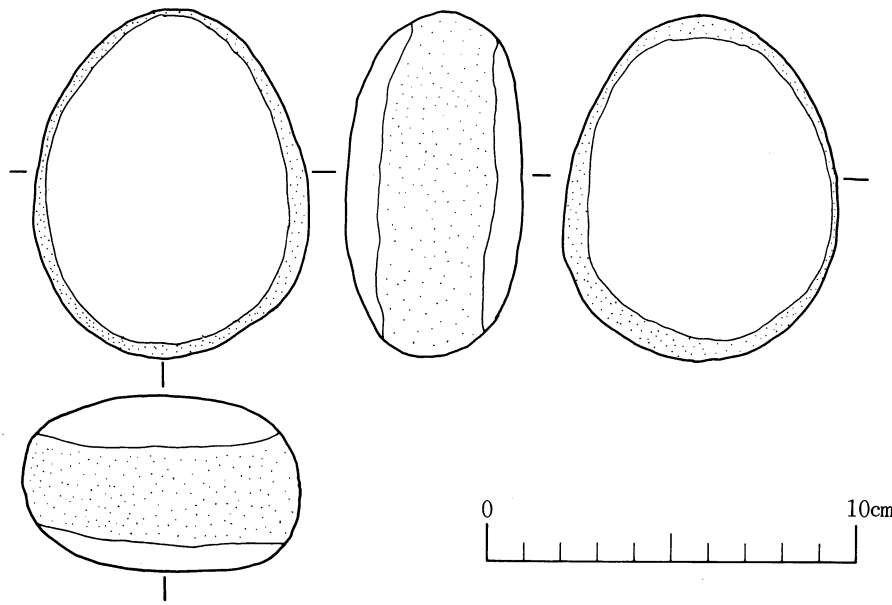
福山町佳例川字上村にあり、福山町北部の大屋敷地区の北側に位置する。遺跡は舌状に延びた台地に立地している。

遺跡は一部個人による農地開発が行なわれ、縄文時代前期に属する押型文土器・変形燃系文土器・寒ノ神式土器の破片の他磨石・石皿・黒曜石片が採集された、付近には赤褐色を呈する火を受けたと考えられる礫が散乱しており、炉跡の存在していたことが想定される。

73～75は楕円押型文を施す押型文土器片である。73は外反しているところから頭部片であろうか。74・75は胴部片である。茶褐色を呈し、焼成は良い。76～84は変形燃系文を施す土器片である。76・77が口縁部片・78～80・84が頸部片、81～83が胴部片である。胎土に雲母片を含むもの（77・81）もある。焼成は良く、硬質である。これらは器形からみて手向山式系統のものであると考えられる。85～89は寒ノ神A式に属するものである。85～87が寒ノ神Aの式、88・89が寒ノ神A b式に細分できる。85が口縁部、86が頸部片、87～89が胴部片である。88・89には二

本の沈線間に撚糸文を施している。90~92は器面に撚糸文を施す土器片で、器形等は不明であ

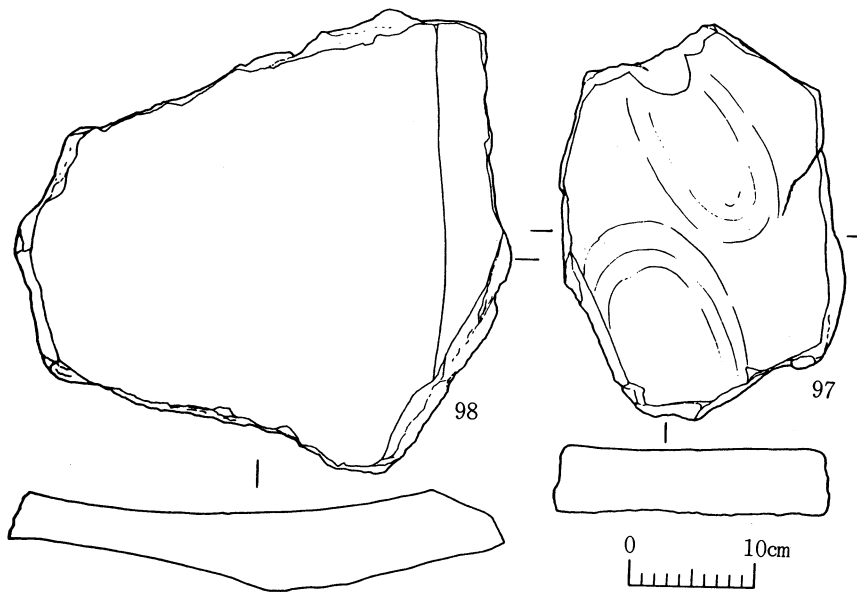




第21図 上村遺跡採集遺物(2)

る。93は凹線を，94は沈線を施すもので岩崎式系統の土器片と考えられる。95は内面に貝殻条痕を施している底部片である。

96は敲石である。楕円形を呈し，側辺部に敲打痕を残す。長さ9.5cm，幅7.6cm，厚さ4.8cm，重さ490gである。97・98は石皿の破片である。97は，2ヶ所に凹みがみられるものであり，



第22図 上村遺跡採集遺物

長さ32.5cm, 幅22.5cm, 厚み5.2cm, 重さ5.45kgである。98は全体を使用し, 使用面は弧状となるやや大きい石皿の破片である。長さ37.6cm, 幅40.5cm, 最大厚み6.7cm, 重さ11.25kgである。共に安山岩質の石材を用いている。

5 小坂元遺跡

福山町佳例川字小坂元にあり, 大屋敷地区の南約150mの, 小谷をはさんだ南側の丘陵の地側斜面に位置する。大屋敷地区との間及び東側には谷水田が広がっている。

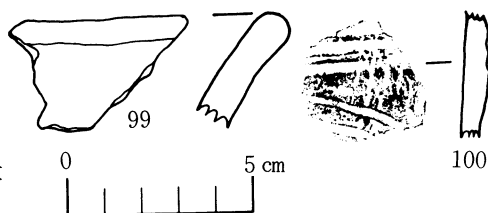
遺跡には, 縄文式土器・成川式土器・土師器の小破片が少量散布している。

6 成ヶ尾遺跡

福山町佳例川字城ヶ尾にあり, 和田地区の北側丘陵の東南部の南側斜面に位置する。現在個人による造成が行なわれ, 断面等に遺物が散見される。

遺跡には縄文式土器片・成川式土器片等が少量散布している。

99が成川式の甕形土器の口縁部片, 100が寒1神神A a 式土器の胴部片である。



第23図 城ヶ尾遺跡採集遺物

7, 前原遺跡

福山町佳例川字前原にあり, 旧比曾木野小学校庭の東側の台地に位置する。周辺は茶畑として多くが利用されており, 東・西と開析谷が発達しており, 鞍部状となっている。周知の遺跡, 和田遺跡とは同台地土である。

遺跡には, 縄文式土器や土師器の破片が少量散布している。

100は縄文時代後期前葉の岩崎下層式の系統の土器片である。やや太い凹線を器面に施するものである。胎土に粒を含み, 焼成は良い。色調は, 茶褐色を呈する。



第24図 前原遺跡採集遺物

8 供養元遺跡

福山町佳例川字供養元にあり, 和田地区の南400mの台地上に位置する。標高約420mの独立状の台地となっており周囲は複雑に開析谷が入り込んでいる。

遺跡には, 成川式土器・土師器の小破片が少量散布している。

9, 野谷下遺跡

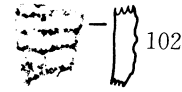
福山町佳例川字野谷下にあり, 野谷地区の南約200mのところの位置する。福山町北部にそびえる荒磯岳の北側斜面にあたり, 西側には比高差60m下位に長谷川が南流している。

遺跡には, 成川式土器・土師器の小片が少量散布している。

10, 栗ノ脇遺跡

福山町佳例川字栗・脇・芹牟田にあり、辰伴地区の南側台地上に位置している。荒磯岳の南側斜面にあたる舌状台地上にあり、付近は基盤整備事業が行なわれている。

遺跡には、縄文式土器片が少量散布しているが、破壊されている可能性もある。102は縄文時代早期の吉田式土器の胴部片である。外面にはアナダラ属の貝殻腹縁による押し引き文が横位に施されている。内面には擦痕がみられる。胎土に砂粒を含み、焼成は良い。色調は黒褐色を呈している。

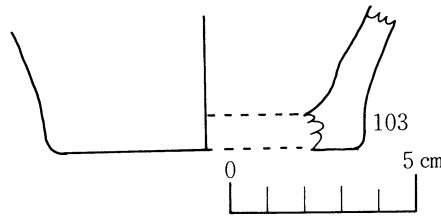


第25図 栗ノ脇遺跡採集遺物

11, 赤松段遺跡

福山町佳例川字赤松段にあり、福山町辰伴地区の西約 100 m に位置し、その西側では国分市と接している。南へのびる舌状台地上にあり、標高約 380m を測る。

遺跡には、縄文土器片が少量散布している。103は縄文時代後期の底部片と考えられるものである。胎土に砂粒を含み、焼成は良い。色調は茶褐色を呈する。



第26図 赤松段遺跡採集遺物

12, 山神段遺跡

福山町佳例川字山神段にあり、牧野地区の北約 100 m の標高約 100 m の南へ緩傾斜する台地の基部に位置する。付近は農業基盤整備事業が進んでおり、遺跡は広がっていたと考えられるところである。

遺跡には、土師式土器が少量散布している。

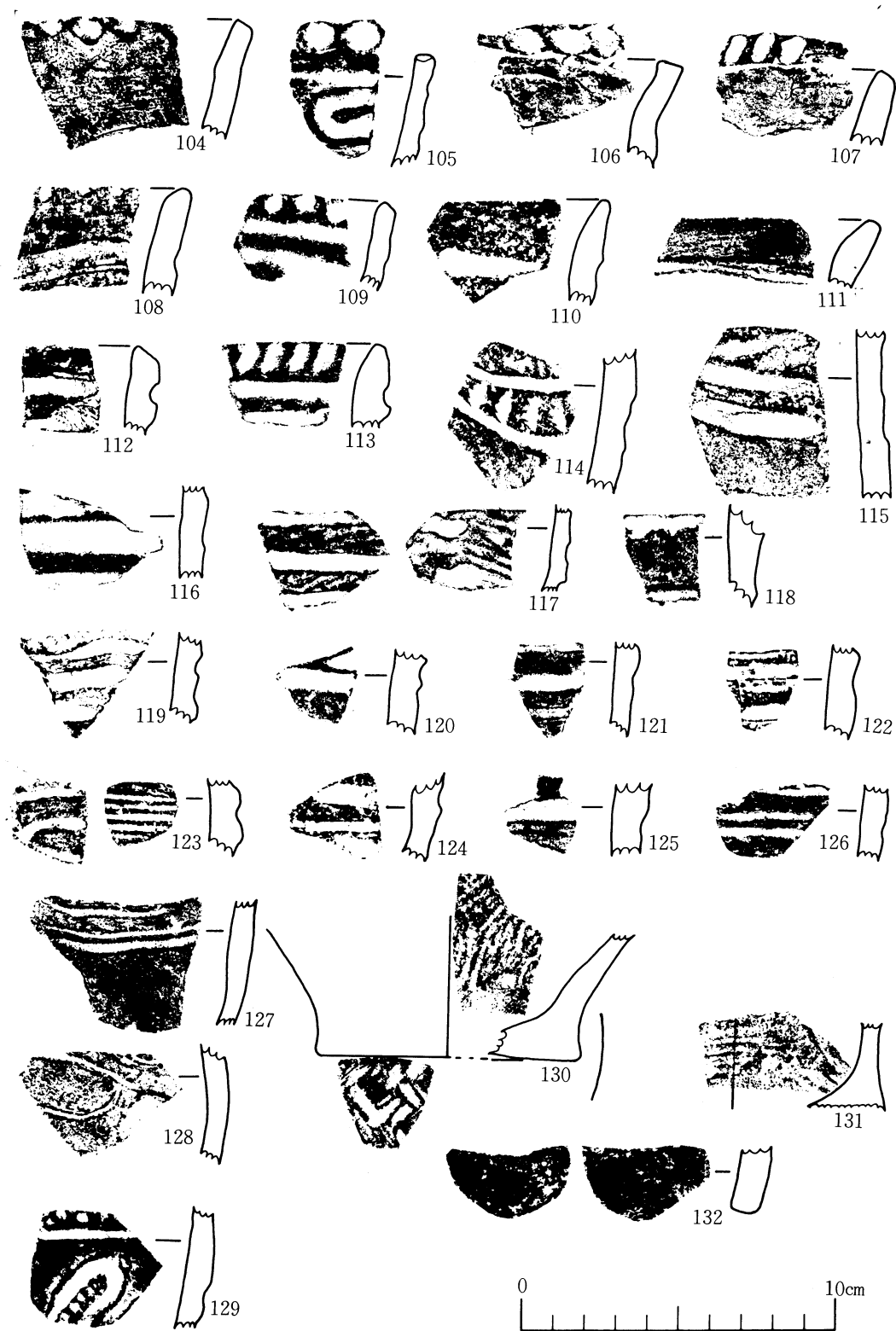
13, 一本松遺跡

福山町佳例川字一本松にあり、内場地区の東700mのところの位置し、東西へのびる台地上にある。台地は北側を西流する佳例川とその支流に開折された比高差約70mの谷に狭まれている。荒磯岳南側には桜島起源のボラ層が厚く堆積しており、当置跡付近では畑地の天地返しが行なわれており、天地返しの際に下位の層の遺物が地表にあらわれたものと考えられ、他の所には多く包含された状況にあると考えられ、縄文時代後期の良好な遺跡といえる。

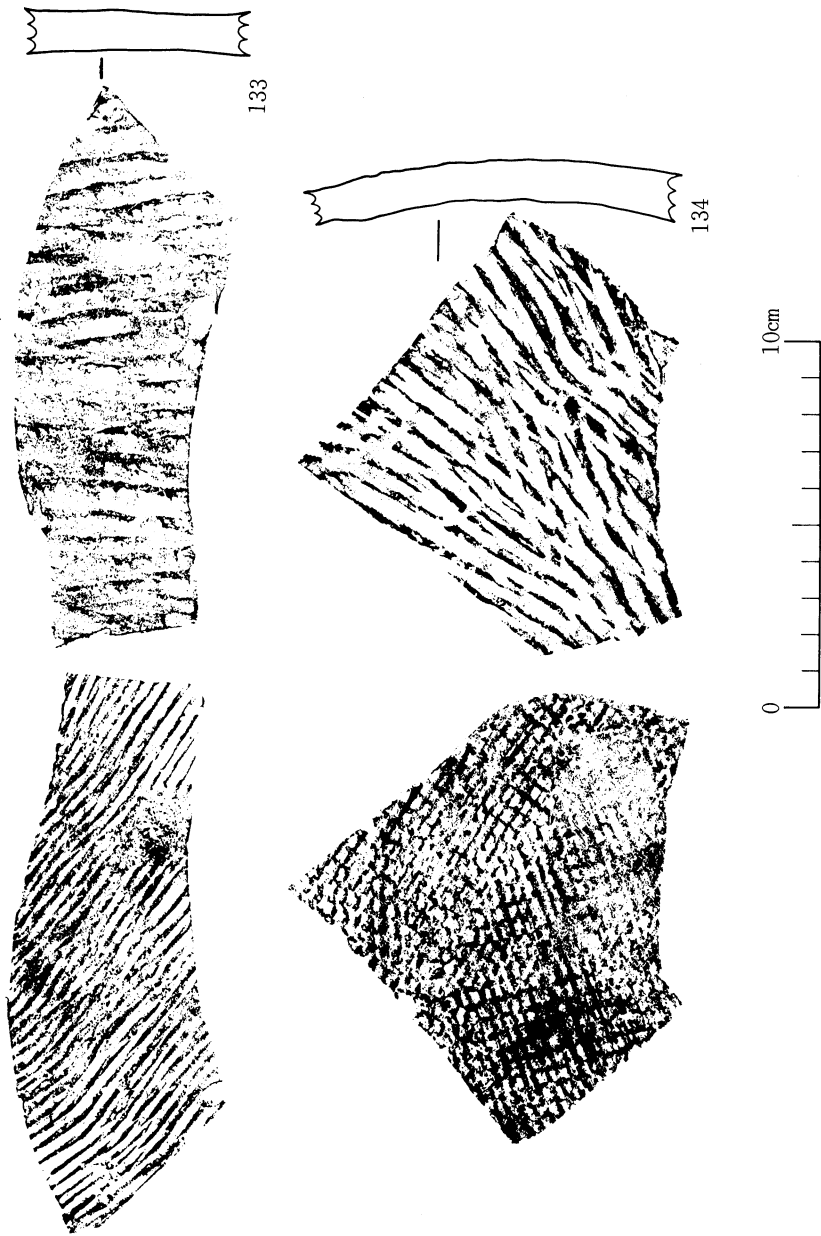
遺跡には、天地返しが行なわれた畑地を中心に、縄文時代後期の遺物を中心に密に散布し、縄文土器片・須恵器の他、石皿・石斧・磨石等が採集された。

104～132が縄文時代後期の岩崎式の系統の土器片である。凹線文を口唇部、口縁部等に施し、貝殻条痕を地文にもつもの(117等)や縄文を施したもの(129)がある。104～113が口縁部片、114～129が胴部片で、30・131は網代圧痕のある底部である。132は土器片の周囲を研磨した円盤状土製品の破片である。133・134は須恵器片である。134の外表面は叩きの後のナデ整形が観察される。

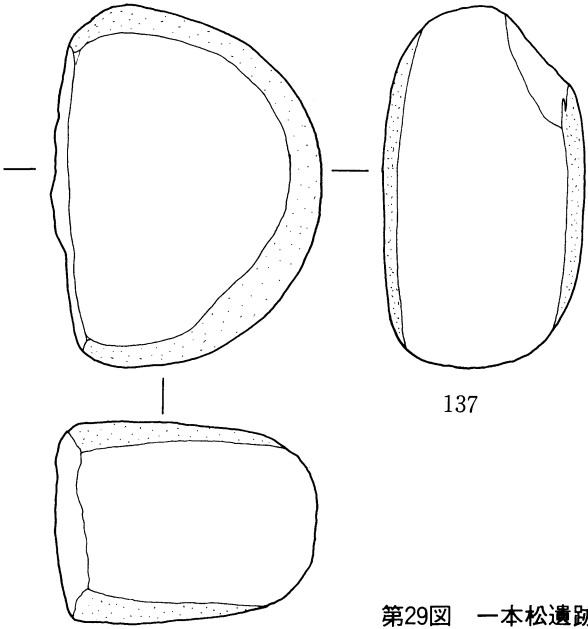
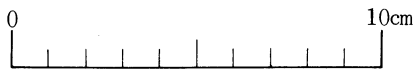
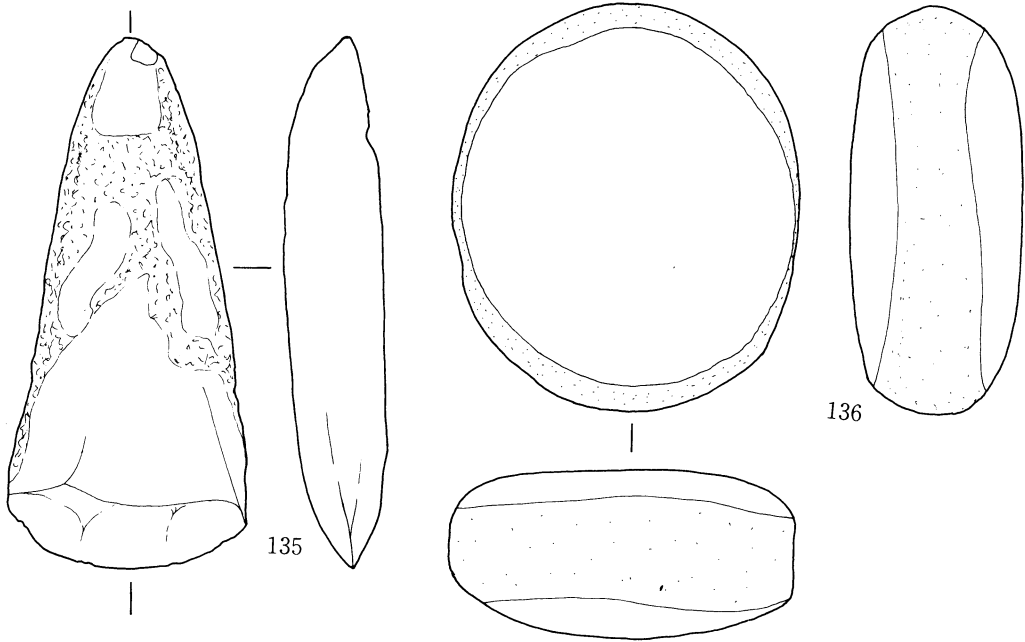
135は砂岩質の磨製石斧である。敲打による整形の後研磨を刃部を中心にして施したものである。長さ43.3cm、幅19.7cm、最大厚8.1cm、重さ329.5gを測る。136・137は敲石である。共に楕



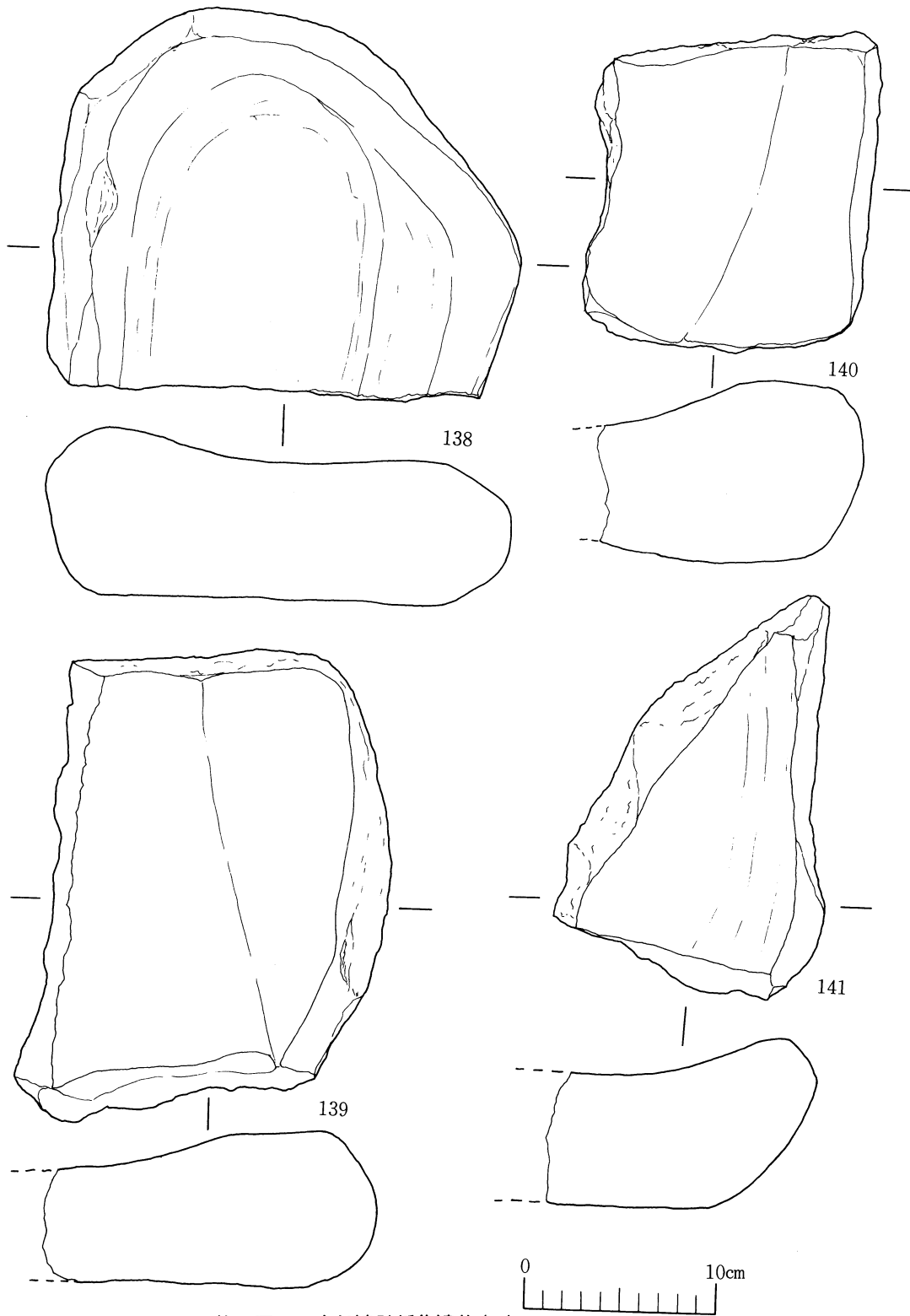
第27図 一本松遺跡採集遺物(1)



第28図 一本松遺跡採集遺物(2)



第29図 一本松遺跡採集遺物(3)



第30図 一本松遺跡採集遺物(4)

円形を呈し、その側辺部を使用したものである。136は長さ33.3cm, 幅28.1cm, 最大厚13.9cm, 重さ750.5g, 137が長さ29.7cm, 幅21.4cm, 厚さ16.4cm, 重さ651.0gの破片である。

138～141は石皿の破片である。138・139は安山岩質のもの, 140・141は真珠岩質の気泡の多い火山岩を利用したものである。重さはそれぞれ, 138, 6.95kg, 139, 5.01kg, 140, 3.37kg, 141, 2.85kg を測る。

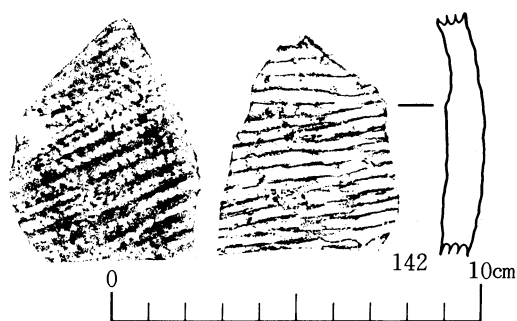
一本松遺跡には、これらの遺物等から生活址の存在することが予想される。

14, 花建原遺跡

福山町福山字花建原にあり、牧之原台地の地側縁辺部に位置する。北側は牧の原川により開折された小谷をはさんで国分市と接し、南側150mには国道10号線が東西に走る。

遺跡からは須恵器片のみの採集であったが、近くには馬越遺跡があり、ボラの堆積が厚いため同様のものが広がっている可能性を残す。

142は黒灰色を呈する須恵器片である。外面に格子叩き目、内面に平行叩き目がみられる。

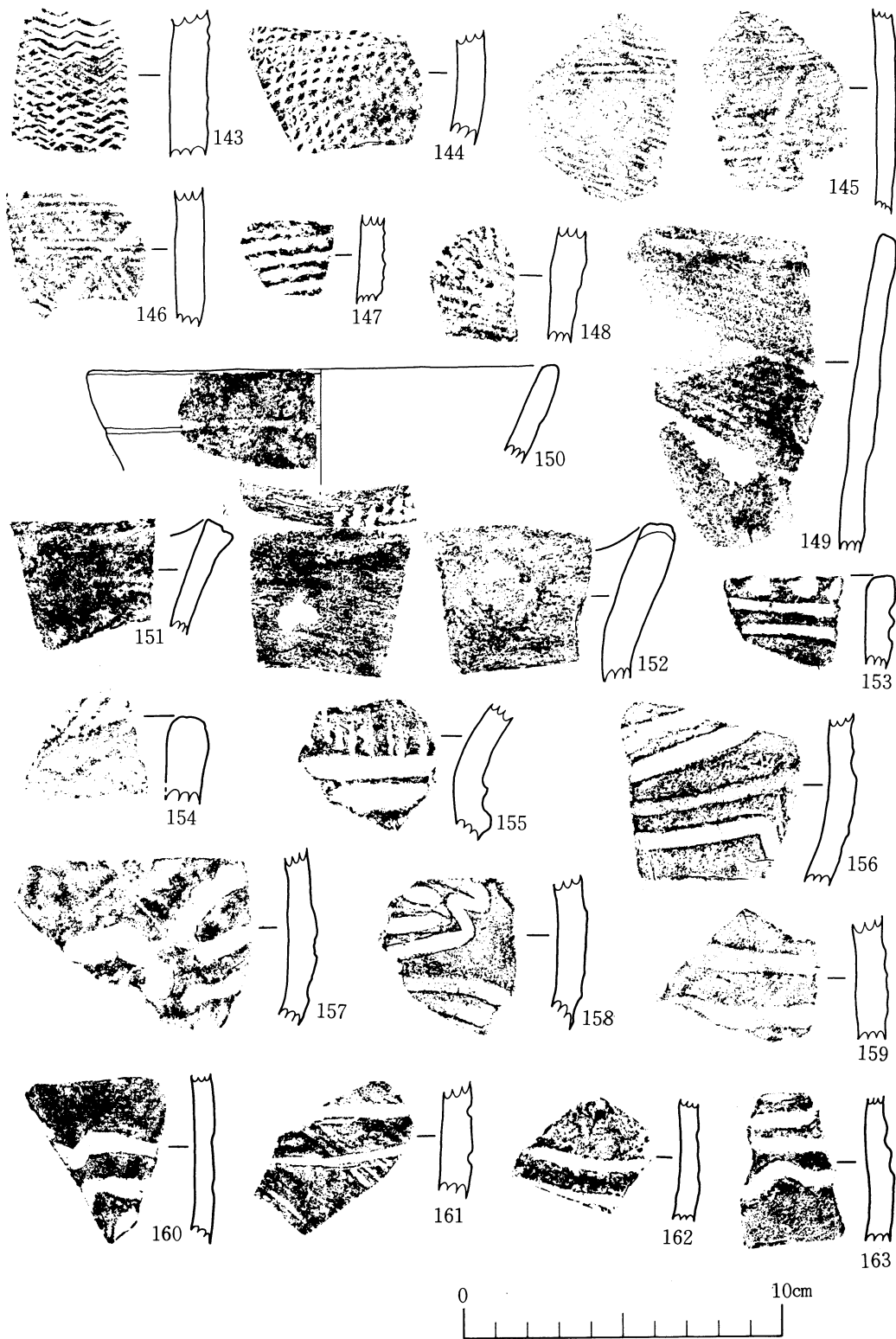


第31図 花建原遺跡採集遺物

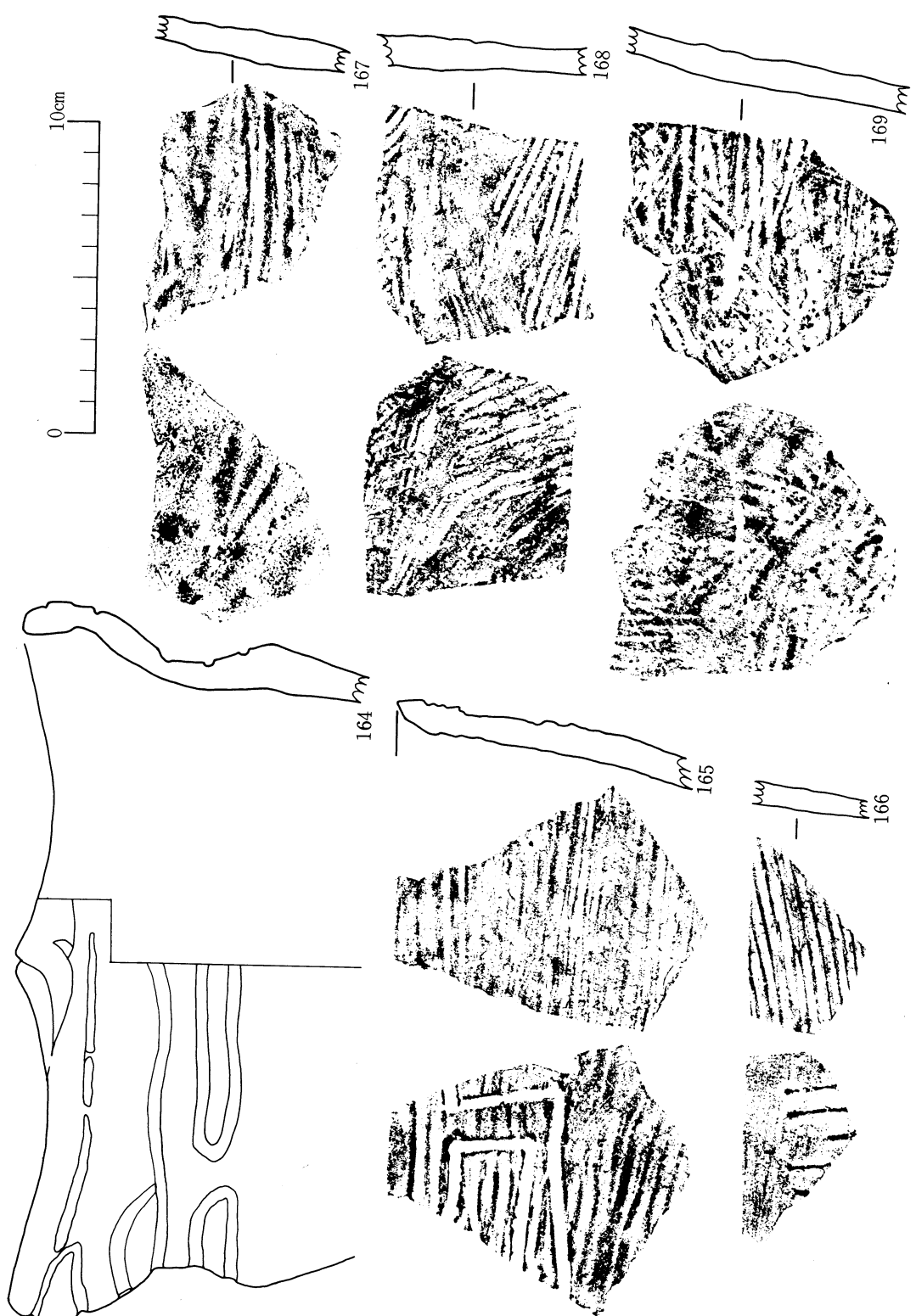
15 馬越遺跡

福山町福山字馬越にあり、牧之原台地の西側部分の福山町役場牧之原支所の北側約200のところに位置する。付近は宅地化が進んでおり、遺跡の中央を国道10号線が通っている。この付近にもボラ層は約50cm前後堆積しており、一本松遺跡のように表面からの採集や確認はややむづかしい様相を呈する。断面等の観察により、赤ホヤ火山灰土層の下位から縄文時代早～前期相当の押型文土器や貝殻条痕文土器の破片が、赤ホヤ火山灰土層の上部に縄文時代後期の岩崎式・指宿式土器系統の土器片が、その上位の黒色土層の下部に成川式土器系の土器片があることが観察できた。又、開地した断面には住居址様の落ち込み部分も確認でき、生活址の存在が堆定できる一帯である。

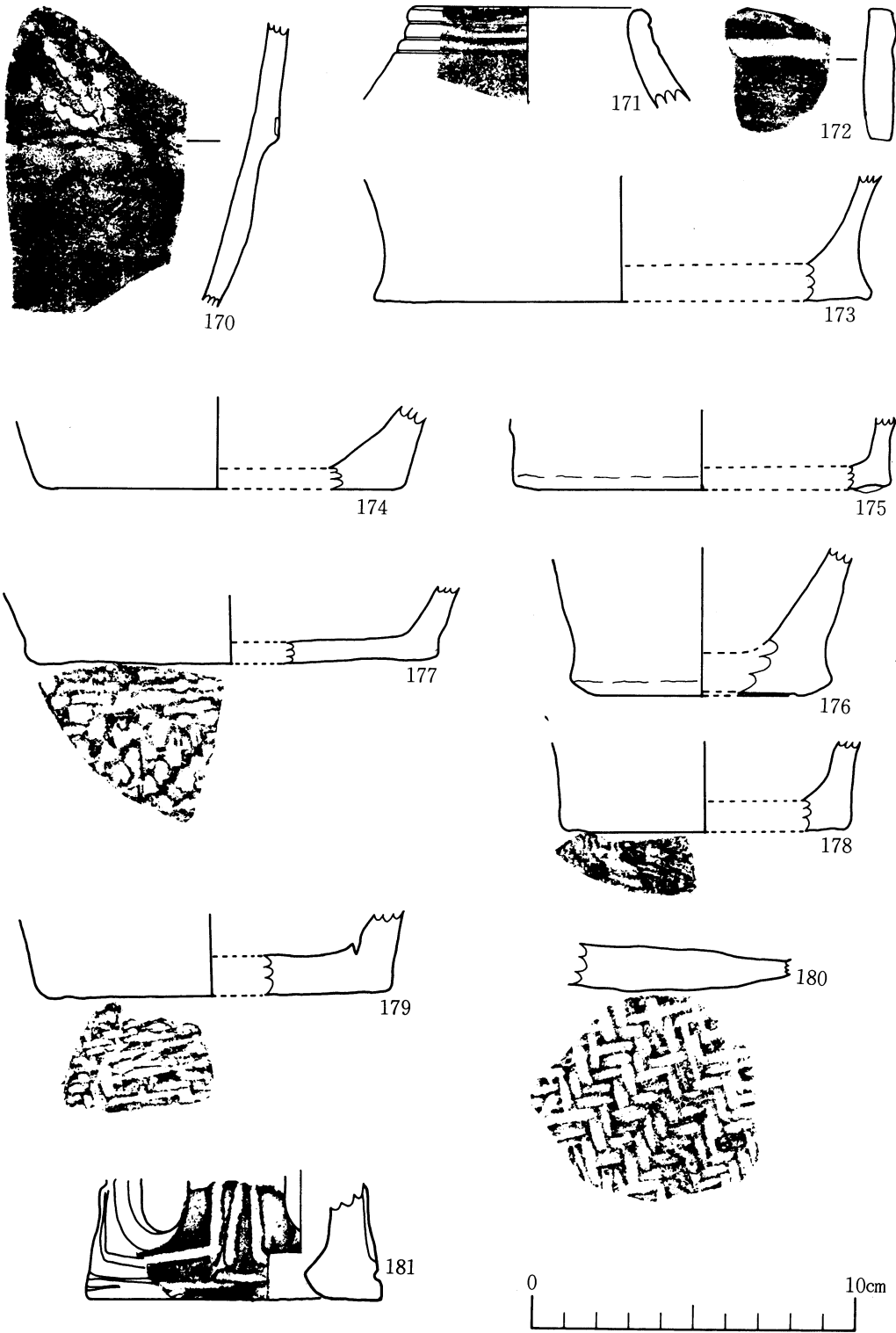
143～148が、断面の赤ホヤ火山灰土層の下位から採集したものである。143が山形押型文、144が楕円押型文の土器片である。145～149は器面に貝殻条痕を施すもので、149は口縁から胴部にかけてのものである。149～181は地下げされた地区の赤ホヤ火山灰土層中であつたと考えられる土器片である。143～148が縄文時代早～前期に比定できるのに対し、これらは縄文時代後期に属するものと考えられる。これらの土器片は岩崎式系統のものが中心で一部指宿式系統のものがある。150～154が口縁部片、155～163が胴部片で凹線文や貝殻刺突文を描き、口唇部にも施すもの(154・152)もある。164はややキャリパー形に近い器形を呈する口縁径22.4cmを測るもので、口縁は山形を呈する。山形部は粘土紐の貼り付けである。文様は沈線文を横位に施し、その下位に長楕円形の沈線文を施す。165は指宿式系統の貝殻条痕文を地文として、沈線



第32図 馬越遺跡採集遺物(1)

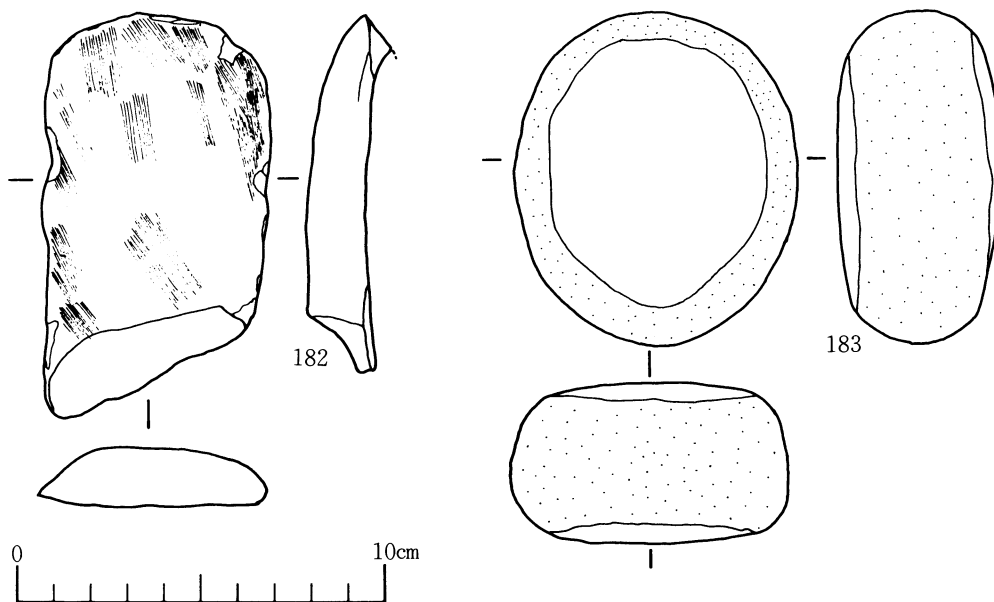


第33図 馬越遺跡採集遺物(2)



第34図 馬越遺跡採集遺物(3)

文を施す口縁部片である。166は貝殻条痕を地文とし、微隆の貼り付け突帯を縦位に付すものである。167～168は胴部下位の破片で粗い貝殻条痕を付している。170はヘラ状工具による連点文を施したもの、171は、横線を施した無頸壺の破片である。172は円盤状土製品である。173



第35図 馬越遺跡採集遺物

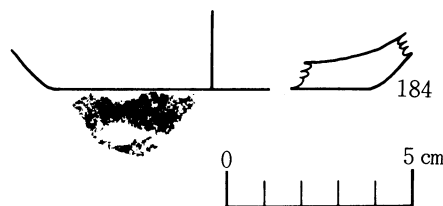
～180は底部片で、177～180には網代圧痕文を施している。181は脚付皿形土器の脚部片である。透し孔をもつもので、文様から指宿式に属するものと考えられる。182は磨製石斧の破片、183は敲石である。

16, 柴立遺跡

福山町佳例川字柴立にあり、福山町の最東部の紫立地区と国道10号線との間に位置する。尾根状に延びた台地の東は財部町と接する。

遺跡には、土師器の破片が少量散布している。

184は、底部径8.8cmの土師器庭部片である。底部はヘラ起しである。



第36図 柴立遺跡採集遺物

17, 新原遺跡

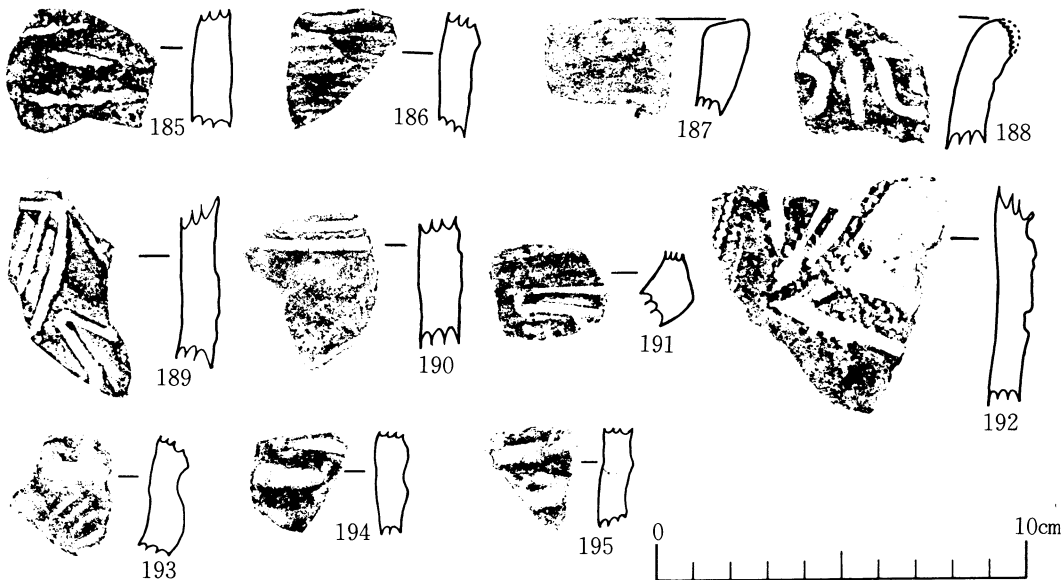
福山町福沢字新原段・柿木迫にあり、新原地区の東側台地に位置する。東側は急崖に面し、大隅町と接しているところである。ボラ層が厚く堆積している。

遺跡には、縄文式土器、土師器の破片が少量散布している。

18, 中ノ段遺跡

福山町福山字中ノ段・阿多口にあり、池ノ谷地区の東側に広がる舌状台地の基部に位置している。基盤整備が行なわれてボラ層が除去されて、遺物の散布がみられるようになったと考えられる地域である。

遺跡には、縄文時代後期に属する土器片が散布している。185は、短い沈線を横位に施すもの



第37図 中ノ段・諏訪段・持手木遺跡採集遺物

で、186 は貝殻条痕文を横位に施したものである。

19 諏訪段遺跡

福山町福山字諏訪段にあり、池ノ谷地区の東側に広がる舌状台地の末端近くに位置し、南、北には小谷が発達し、鞍部状となっているところで、標高約360 mを測る。

遺跡には、縄文時代後期に比定できる土器片が散布している。187 は、口唇部がやや肥厚したもので、沈線が施されているのが一部観察できる。188 ~191も器面に沈線文を施すもので縄文時代後期の指宿式系統の土器片である。188 は口縁部片、191 は屈曲部の破片である。全て茶褐色を呈している。192 は磨消縄文土器片であるが、沈線外にも一部縄文が残るものであり、縄文を施した後沈線を施して、縄文を消したことが観察できるものである。

20 持手木遺跡

福山町福山字持手木にあり、福山町南東部国師地区の西側部に位置し、東西に延びる細長い台地上にあって、東側は大隅町と接している。

遺跡には、縄文時代後期の岩崎式系統の土器片が少量散布している。193 ~195 は凹線文を施す土器である。193 には地文に貝殻条痕が施されている。193 ・195 が茶褐色を、194 は外面黒褐色、内面茶褐色を呈している。

第5表 福山町管内の遺跡一覧表

No	遺跡名	所在地	時代	遺物	備考
1	池ノ段	福山町大字佳例川小字地ノ段 高松ヶケ尾・中羽	古墳	成川式土器	
2	イラケ谷	〃 〃 小字イラケ谷	縄文・古墳 ～歴史	縄文式土器・土師器	
3	寺屋敷	〃 〃 小字寺屋敷	〃	〃 〃	
4	上村	〃 〃 小字上村	縄文(早 ～前期)	縄文式土器(押型文・ 変形撚糸文・寒ノ神式) 磨石・石皿・黒曜石片	一部破壊
5	小坂元	〃 〃 小字小坂元元	縄文・古墳	縄文式土器・成川式土 器・土師器	
6	城ヶ尾	〃 〃 小字城ヶ尾	縄文・古墳	縄文式土器, 成川式土 器	
7	前原	〃 〃 小字前原	縄文・石墳 ～歴史	縄文式土器・土師器	
8	供養元	〃 〃 小字供養元	古墳	成川式土器	
9	野谷下	〃 〃 小字野谷下	古墳～歴史	成川式土器・土師器	
10	栗ノ脇	〃 〃 小字栗之脇 芹牟田	縄文	縄文式土器(吉田式)	
11	赤松段	〃 〃 小字赤松段	〃	〃	
12	山神段	〃 〃 小字山神段	古墳～歴史	土師器	
13	一本松	〃 〃 小字一本松	縄文・古墳 ～歴史	縄文式土器(岩崎式・ 指宿式)石斧・磨石・ 石皿・須恵器	
14	花建原	〃 大字福山小字花建原	古墳～歴史	須恵器	
15	鳥越	〃 〃 小字鳥越	縄文・古墳 ～歴史	縄文式土器(岩崎式・ 指宿式・押型文)石斧 ・磨石・須恵器	
16	柴立	〃 大字佳例川小字柴立	古墳～歴史	土師器	
17	新原段	〃 大字福沢小字新原段・ 柿木迫	縄文・古墳 ～歴史	縄文式土器・土師器	
18	中ノ段	〃 大字福山小字中ノ段・ 阿多口	縄文	縄文式土器(後期)	
19	諏訪段	福山町大字福山小字諏訪段	縄文	縄文式土器(後期)	
20	持手木	〃 〃 小字持手不	〃	〃	

第4節 霧島町管内の分布調査

霧島町内の調査は昭和59年6月25日から6月29日まで実施した。雨のため当初の調査目標面積についての十分な調査をなしえず、南部の一部台地上の分布調査に終わった。

霧島町は鹿児島県の北東部、始良郡の東端部に位置しており、東は財部町、宮崎県都城市、西は牧園町、隼人町、南は国分市、北は宮崎県小林市と接している。北部は我が国で最初に国立公園に指定された霧島屋久国立公園の一部になっており、中岳、新燃岳、御鉢の山々がそびえ準高冷地となっている。これらの霧島連峰の山々を源として霧島川が東西約9km、南北約16kmの南北に細長い町内をほぼ縦貫するかたちで流れている。南部はほぼ東西に手籠川がシラス台地を浸食しながら流れており、国分市、隼人町との境の春山原、牧神の台地を形成している町内の中央部をほぼ東西に国道223号線が通り、南部を国鉄日豊本線がこれもほぼ東西に走っている。

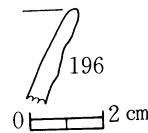
町内の遺跡は昭和52年の『鹿児島県市町村別遺跡地名表』によると、縄文時代の遺跡9、弥生時代の遺跡3が知られている。縄文時代の遺跡は町の中央部霧島川とその支流の流域に集中しており、弥生時代の遺跡は南部の手籠川の流域にみられる。町内では過去発掘調査は例がなく、今回の分布調査も日程等のつごうで十分な調査を行うことができなかった。従って未調査の地域が多く、今後詳細な調査が必要である。

1 松ヶ迫遺跡

霧島町永水字松ヶ迫、牧之内にあり、標高約230～240mの台地上に位置している。この台地は春山原台地と呼ばれ、そのほとんどが国分市に属しているが一部霧島町、隼人町にもまたがっている。今回の調査でこの台地上ほぼ全域に遺物が分布しているのを確認した。この台地の北東部、国分市、隼人町、霧島町が境を接する部分の霧島町側に霧島変電所霧島制御所があるが、その東側に遺物の散布がみられた。遺物としては成川式土器、土師器を採集した。

2 松ヶ原遺跡

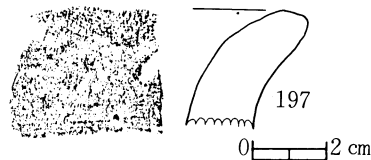
霧島町永水字松ヶ原にあり、南向きの台地の畑に位置しており、その標高は約230～240mである。松ヶ迫遺跡の北東部約400mの地点である。遺物としては黒曜石片、成川式土器、土師器を採集した。第38図196は土師器の坏あるいは碗の口縁部の破片である。



第38図 松ヶ原遺跡採集遺物

3 王子原遺跡

霧島町永水字王子原にあり、一般地方道国分・霧島線が豊後迫で日豊本線と交差する地点の約900m手前から約600m東へ進んだ畑に位置している。遺物としては成川式土器、土師器を採集した。第39図197は土師器の甕形土器の口縁部の破片である。外面の口唇部直下に布目傷が残る。



第39図 王子原遺跡採集遺物

4 堂ヶ迫遺跡

霧島町永水字堂ヶ迫，猶ヶ迫，王子原にあり，標高約255～270 mの畑で王子原遺跡の南約300 m，入水七社神社の北側約500 mの地点に位置している。東側及び西側は谷が入り込んでおり，南東にのびる細長い台地上に遺物が分布している。遺物としては縄文土器（時期不明），成川式土器，土師器を採集した。

5 法ヶ崎遺跡

霧島町永水寺法ヶ崎，鬼原迫にあり，標高約280～285 mの台地上の畑に位置している。一般地方道国分・霧島線から分れた主要地方道都城・隼人線が霧島町に入ったところに牧神の台地が広がり，台地の東側を郡田川の支流が流れ，西側は谷が入り込んでいる。遺物の散布は台地の中央部分一般地方道都城・隼人線の両脇付近にみられる。遺物としては成川式土器，土師器を採集した。

6 中原遺跡

霧島町永水字中原にあり，標高約295 mの畑に位置している。法ヶ崎遺跡の東約800 mの地点で，南東部眼下に国分市との境をなす郡田川が南西に流れている。遺物としては成川式土器，土師器を採集した。

7 上外戸遺跡

霧島町永水字上外戸・中原にあり，標高は約305～310 mで中原遺跡の北東部約600 mの畑に位置している。遺跡の南側約550 mの谷間を郡田川が流れている。約300 m東側には霧島農協養豚肥育センターがある。遺物としては成川式土器，土師器を採集した。

第4表 霧島町管内遺跡一覧

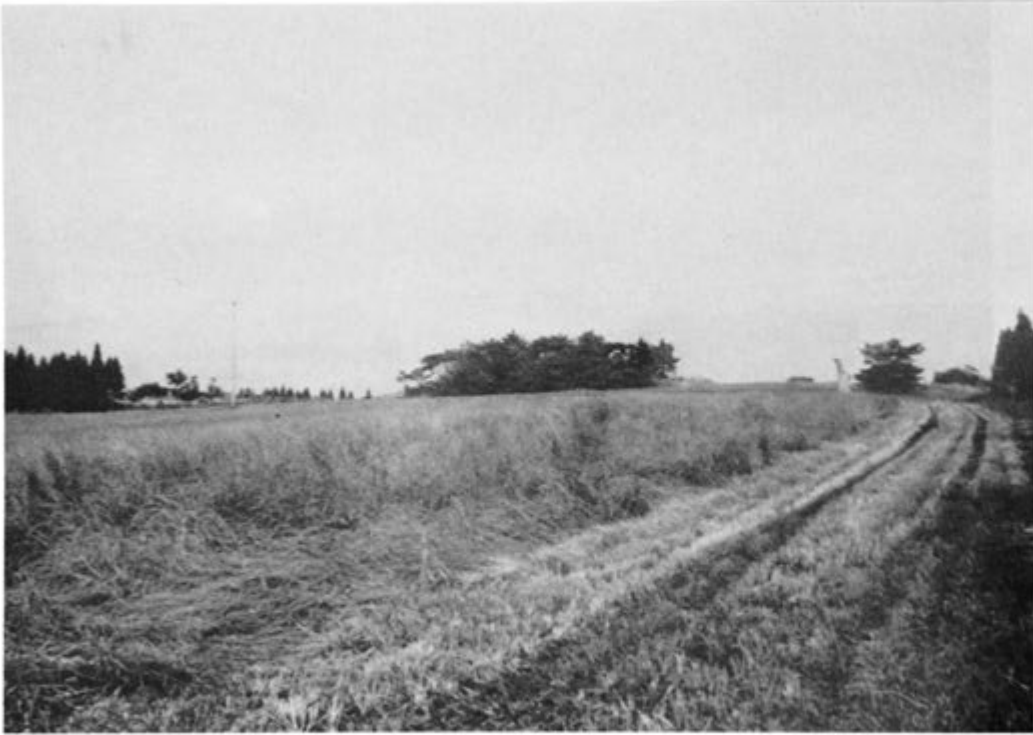
No	遺跡名	所在地	時代	遺物	備考
1	松ヶ迫	霧島町永水字松ヶ迫，牧之内	古墳～歴史	成川式土器，土師器	
2	松ヶ原	〃 〃 松ヶ厚	縄文，古墳～歴史	黒曜石，成川式土器，土師器	
3	王子原	〃 〃 王子原	古墳～歴史	成川式土器，土師器	
4	堂ヶ迫	〃 〃 堂ヶ迫外	縄文，古墳～歴史	縄文土器，成川式土器，土師器	
5	法ヶ崎	〃 〃 法ヶ崎，鬼原迫	古墳～歴史	成川式土器，土師器	
6	中原	〃 〃 中原	古墳～歴史	成川式土器，土師器	
7	上外戸	〃 〃 上外戸，中原	古墳～歴史	成川式土器，土師器	



春山原地区遠景



立山原遺跡遠景



上野原地区遠景



春花田遺跡遠景



梅ヶ迫遺跡遠景



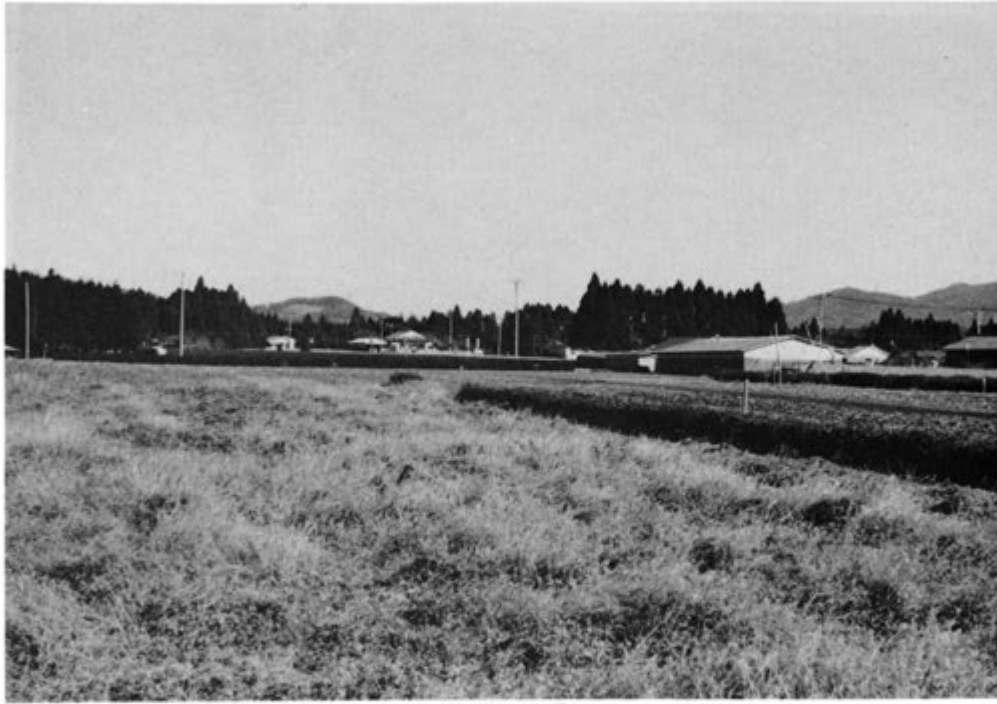
上村遺跡近景



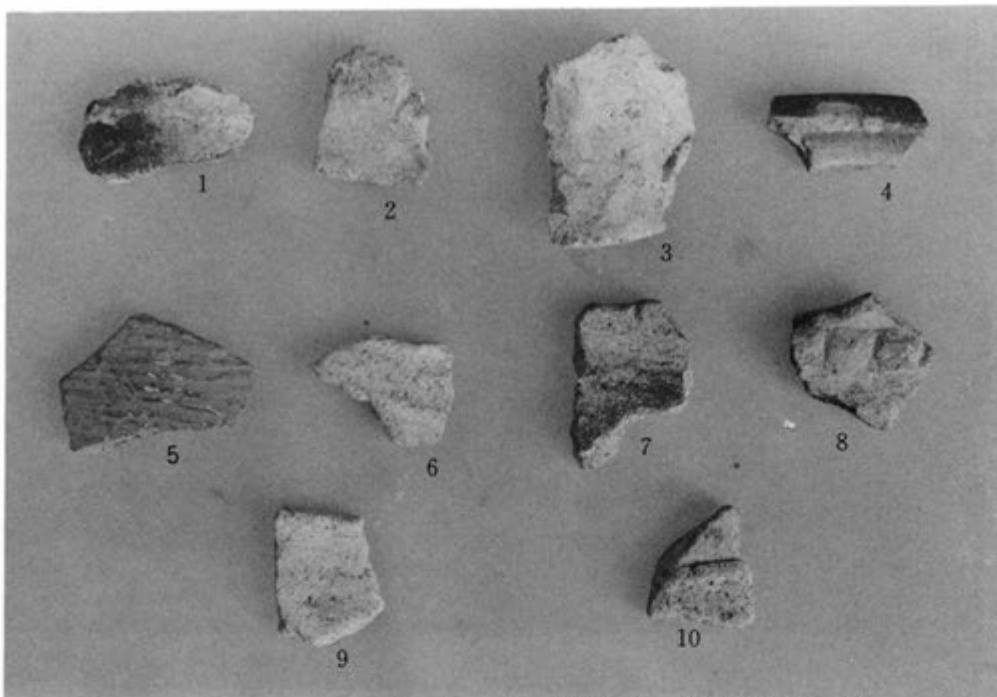
一本松遺跡近景



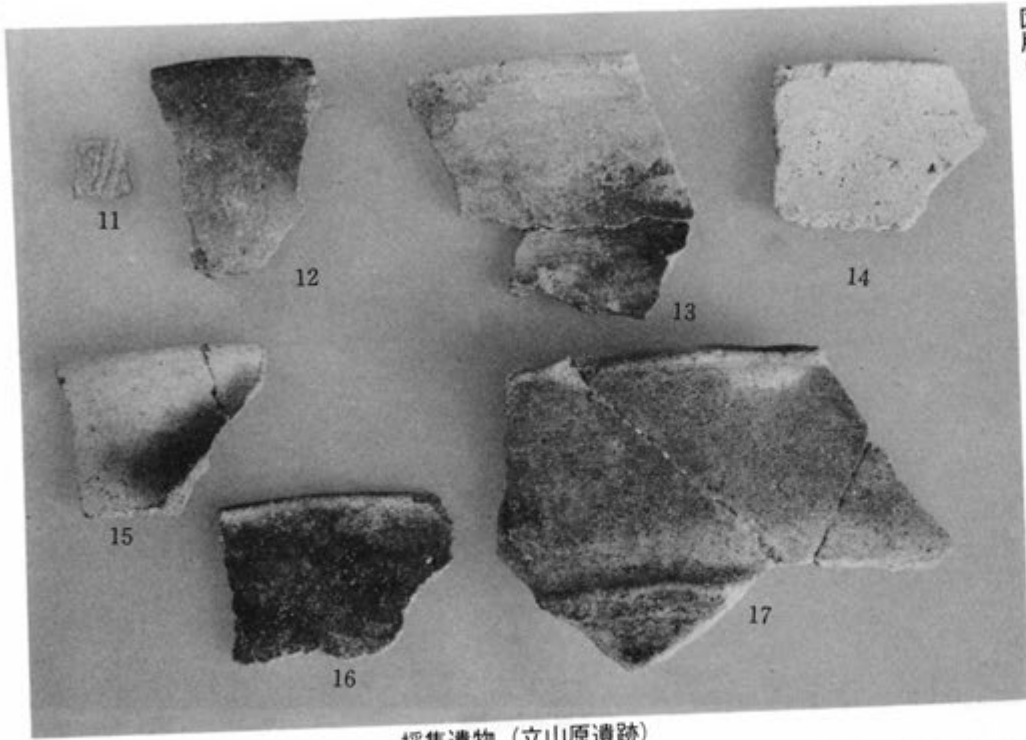
馬越遺跡近景



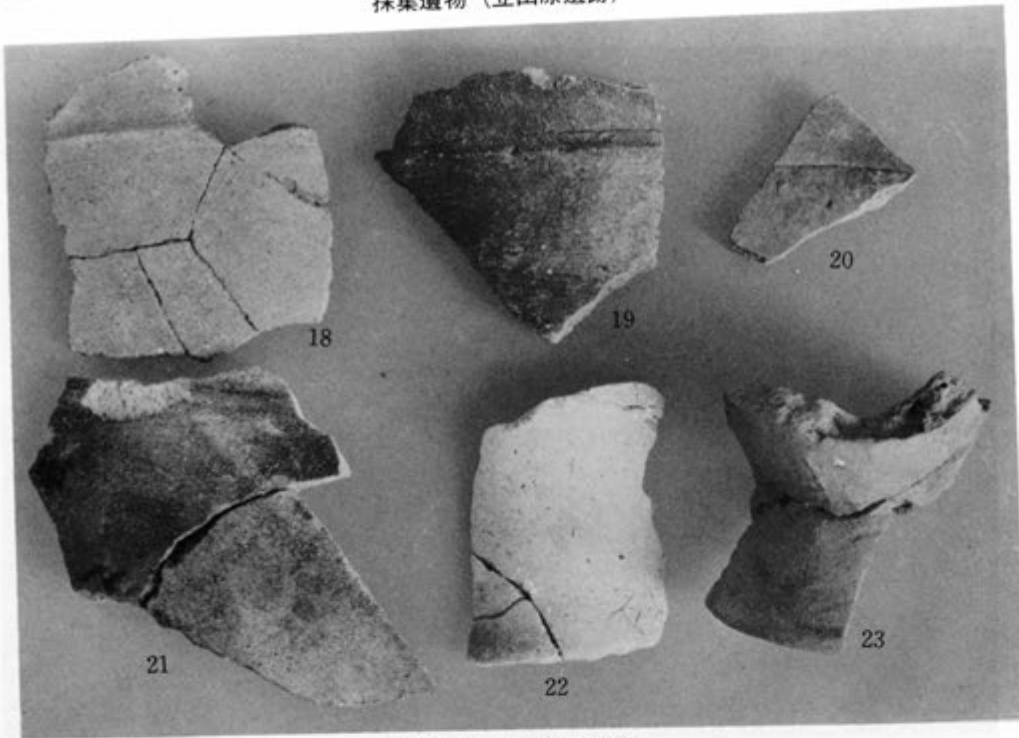
王子原遺跡近景



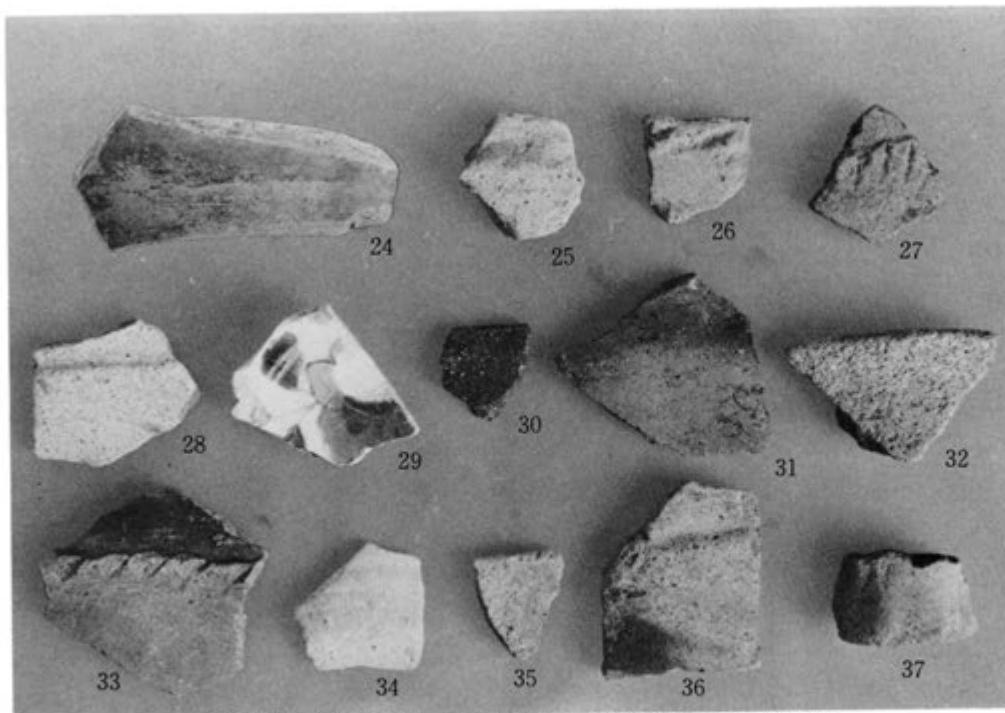
採集遺物 (内野々遺跡, 大久保遺跡, 桃ヶ迫遺跡, 星熊遺跡)



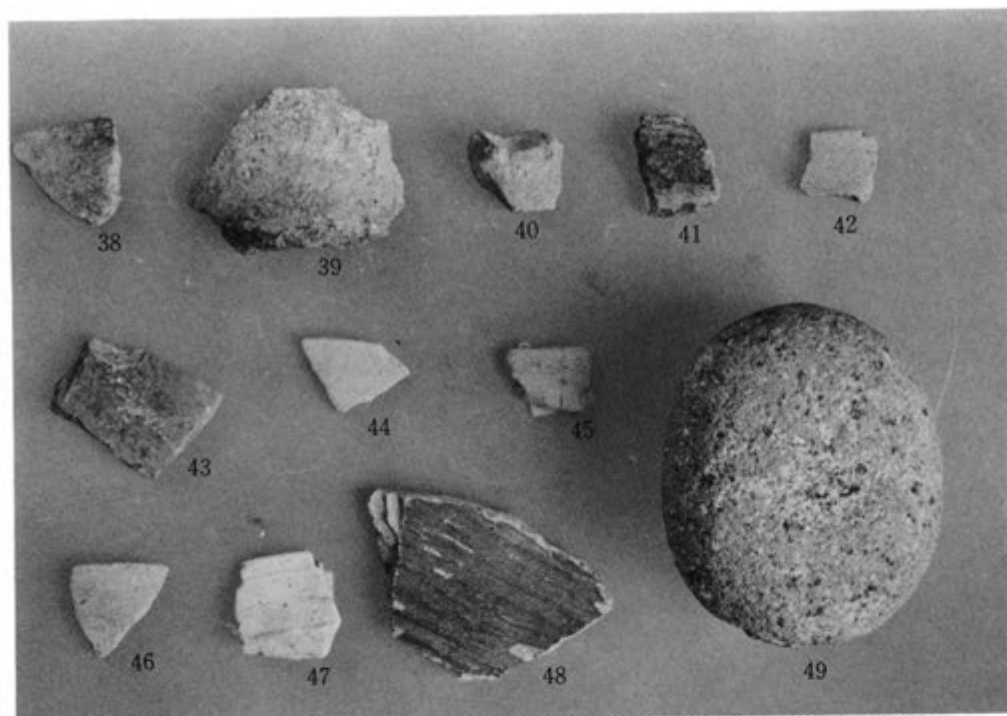
採集遺物 (立山原遺跡)



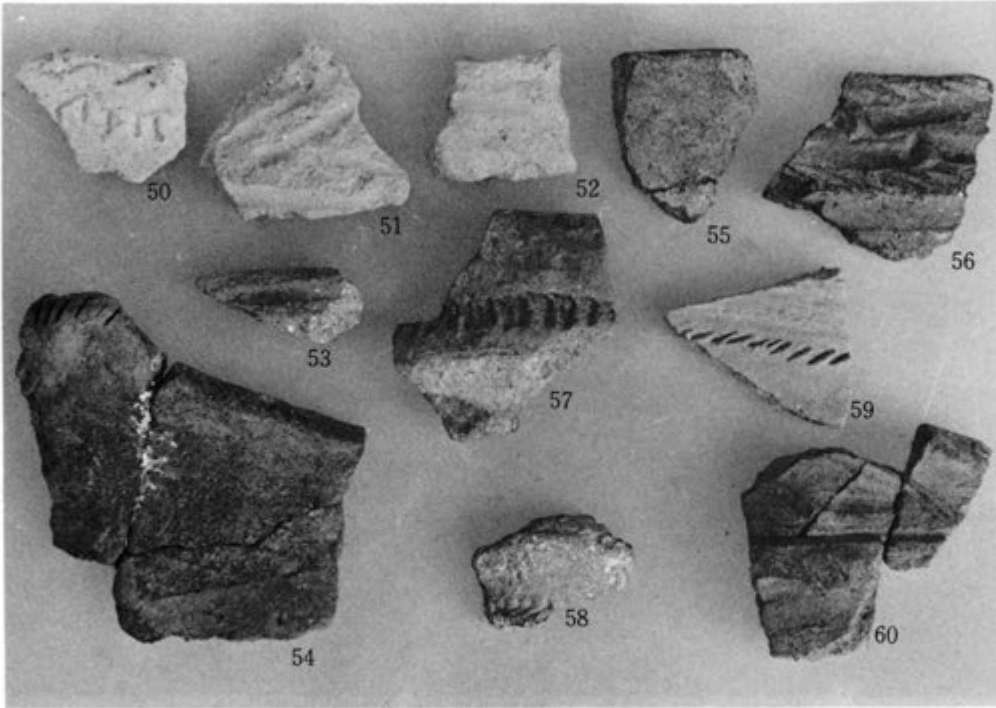
採集遺物 (立山原遺跡)



採集遺物（竹下遺跡、上野原地区、竹渡遺跡、塚脇 C 遺跡）



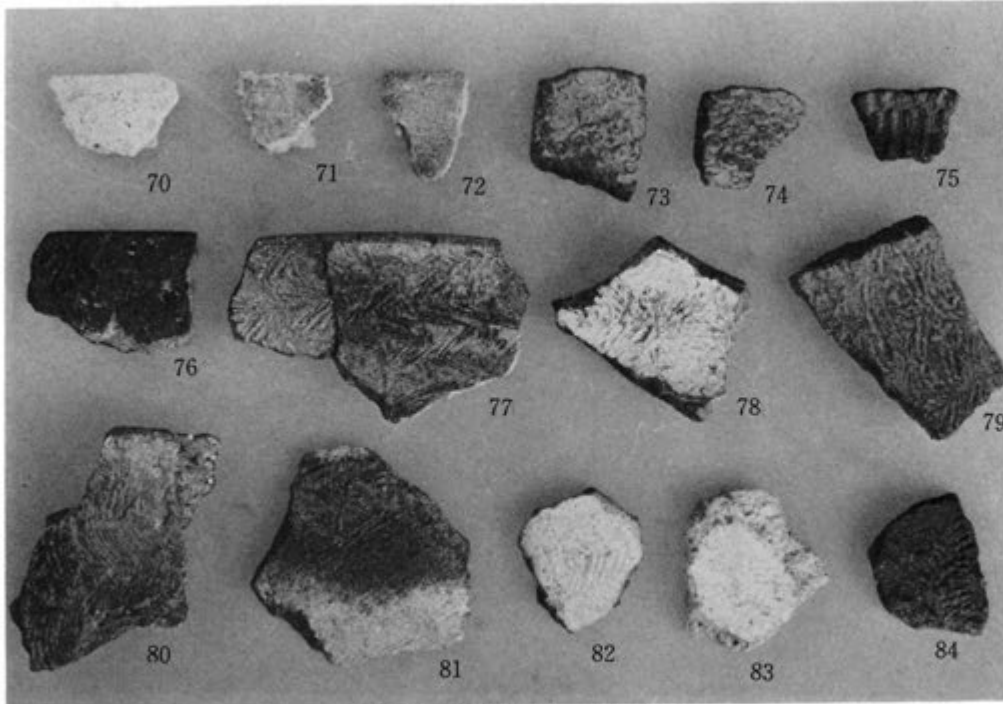
採集遺物（藤熊遺跡、長泊遺跡、上野遺跡、小牧遺跡、上里遺跡、梅木泊遺跡、梅ヶ泊遺跡）



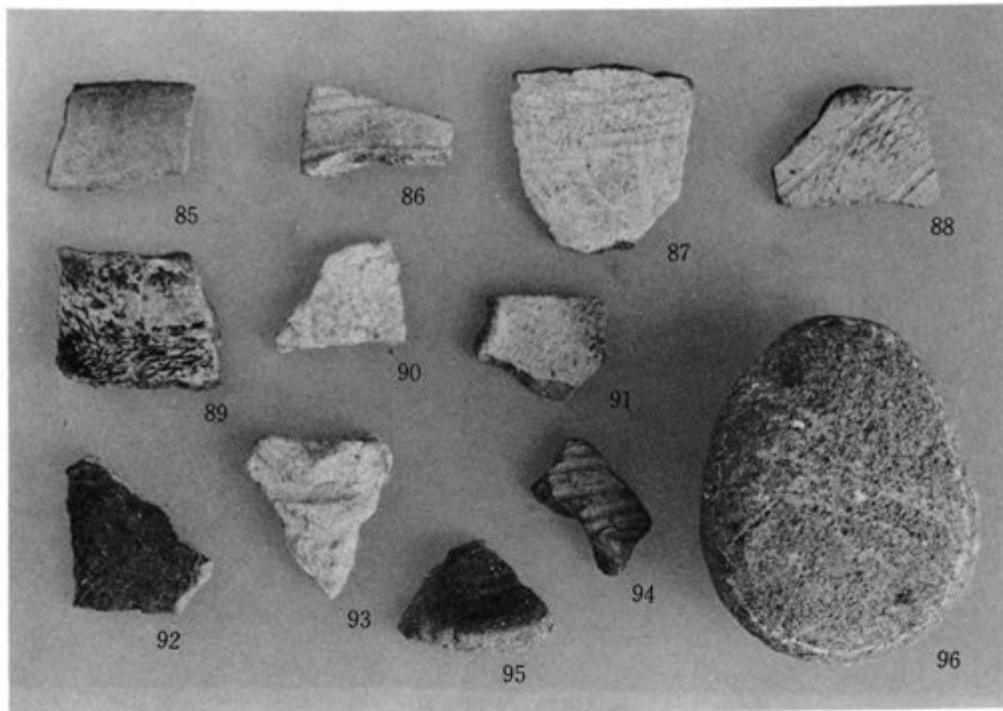
採集遺物 (春花田遺跡)



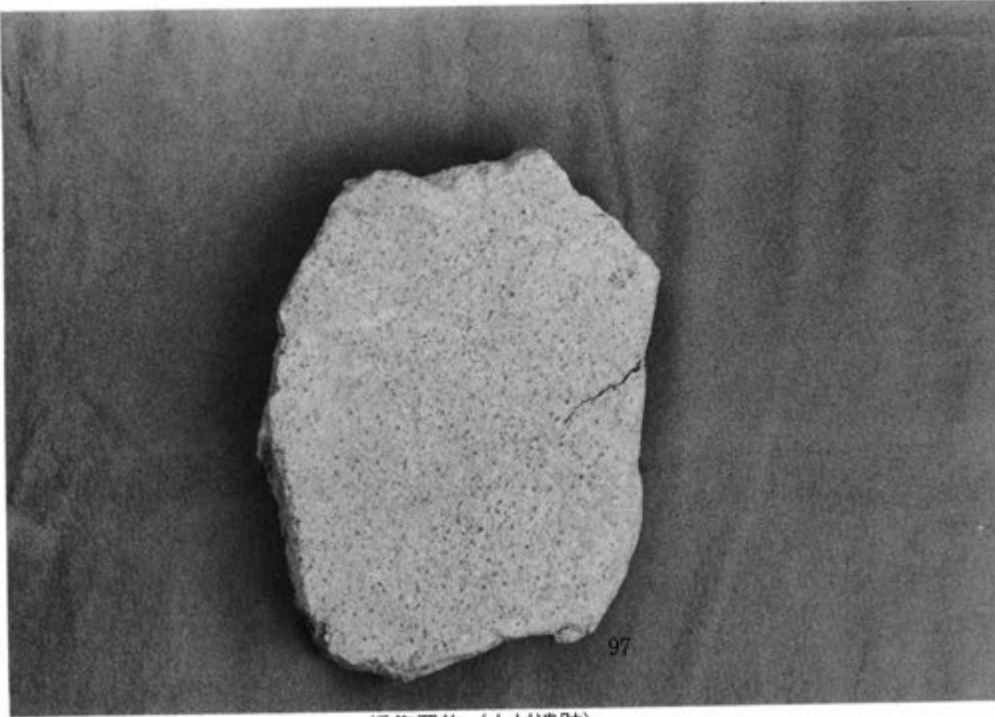
採集遺物 (春花田遺跡)



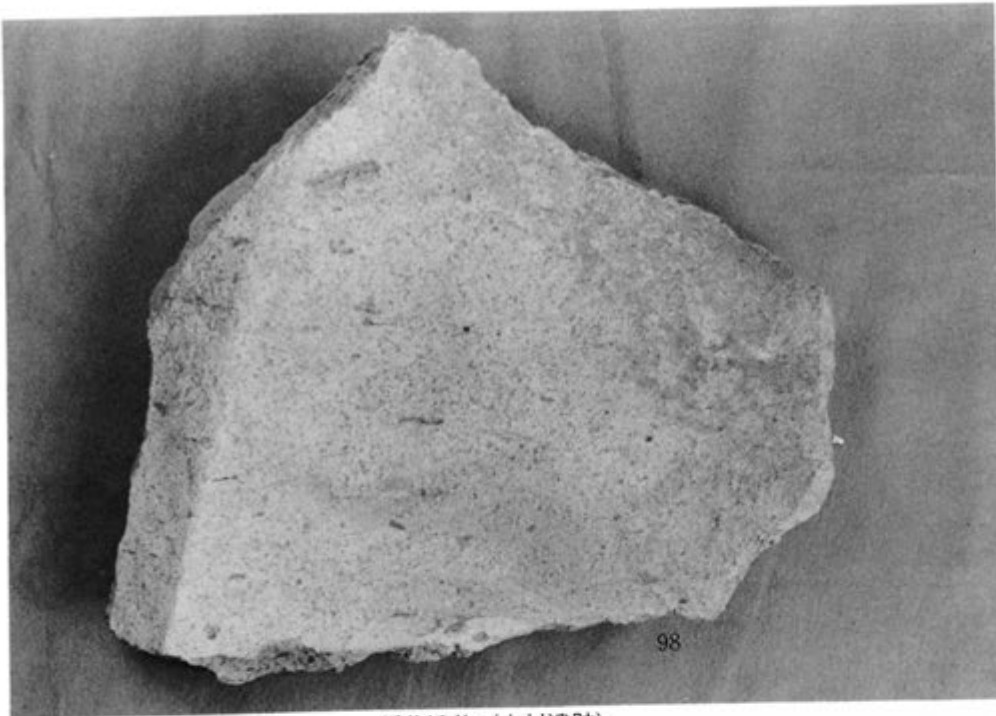
採集遺物 (真孝遺跡、上村遺跡)



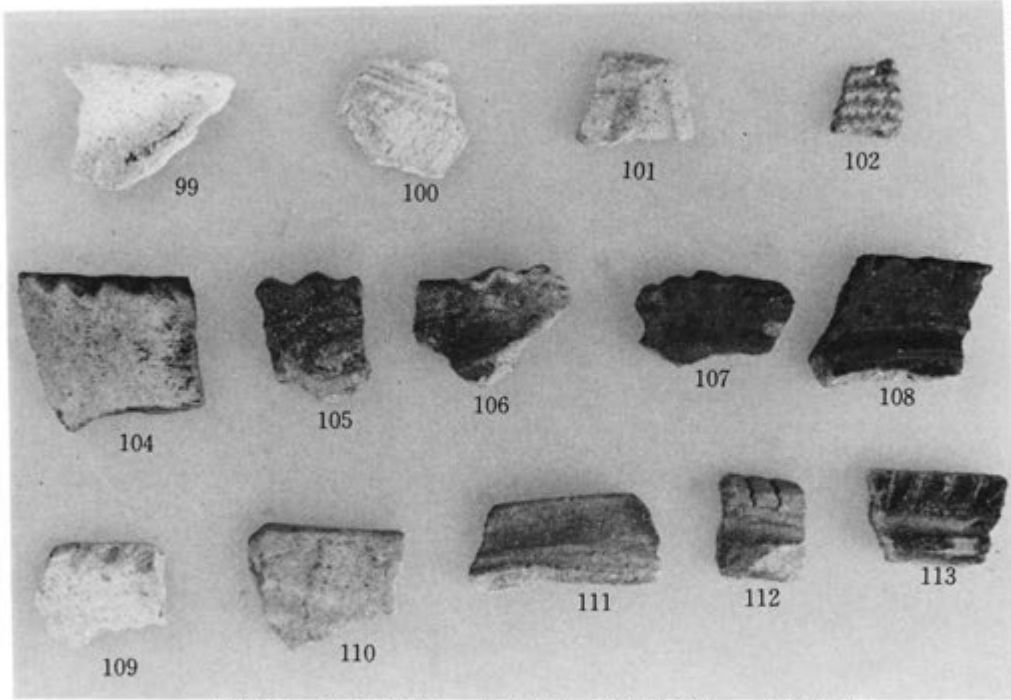
採集遺物 (上村遺跡)



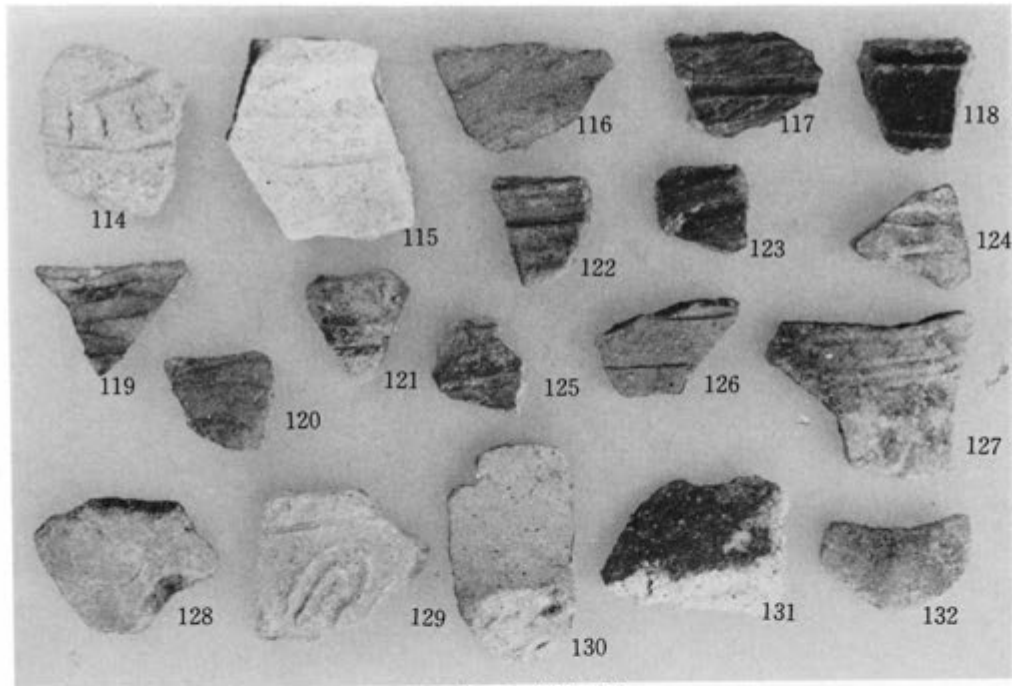
採集置物 (上村遺跡)



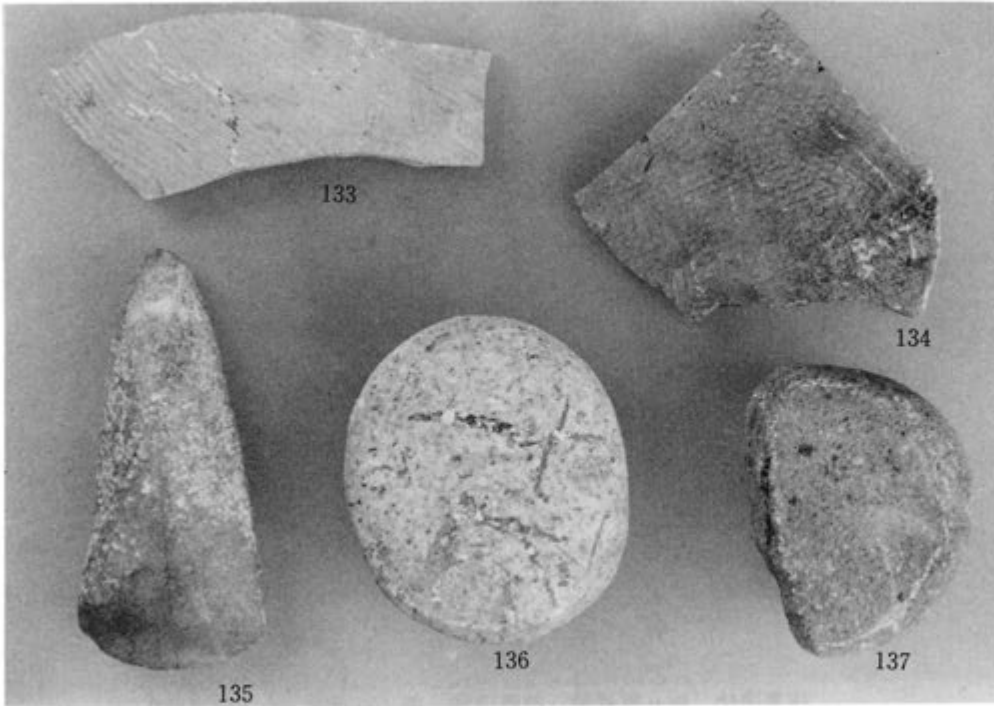
採集遺物 (上村遺跡)



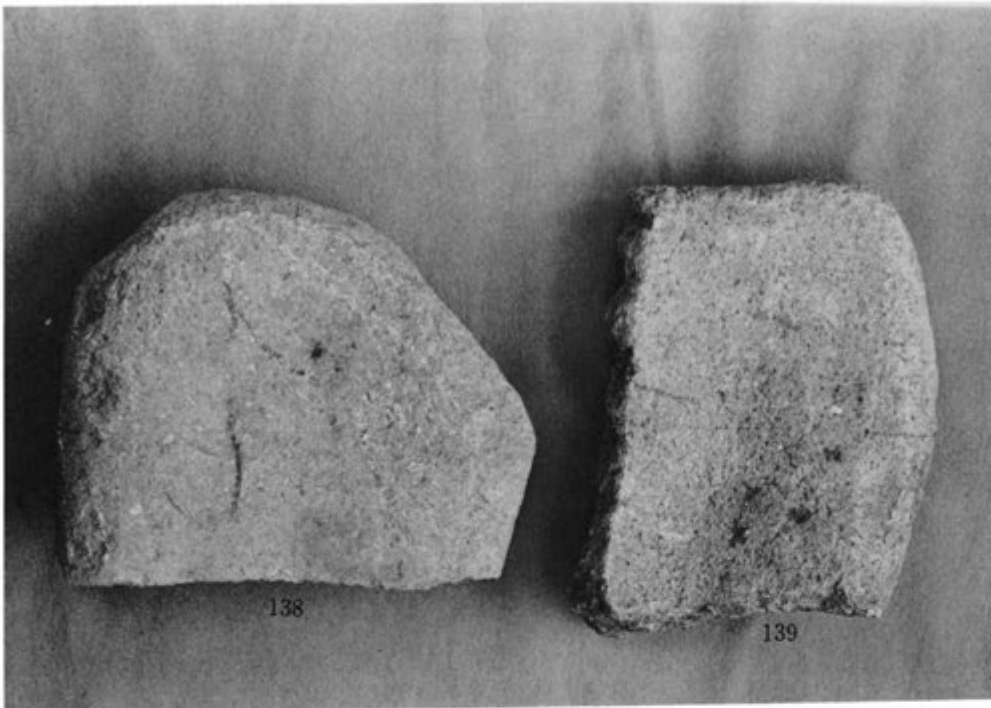
採集遺物 (城ヶ尾遺跡, 前原遺跡, 栗ノ脇遺跡, 一本松遺跡)



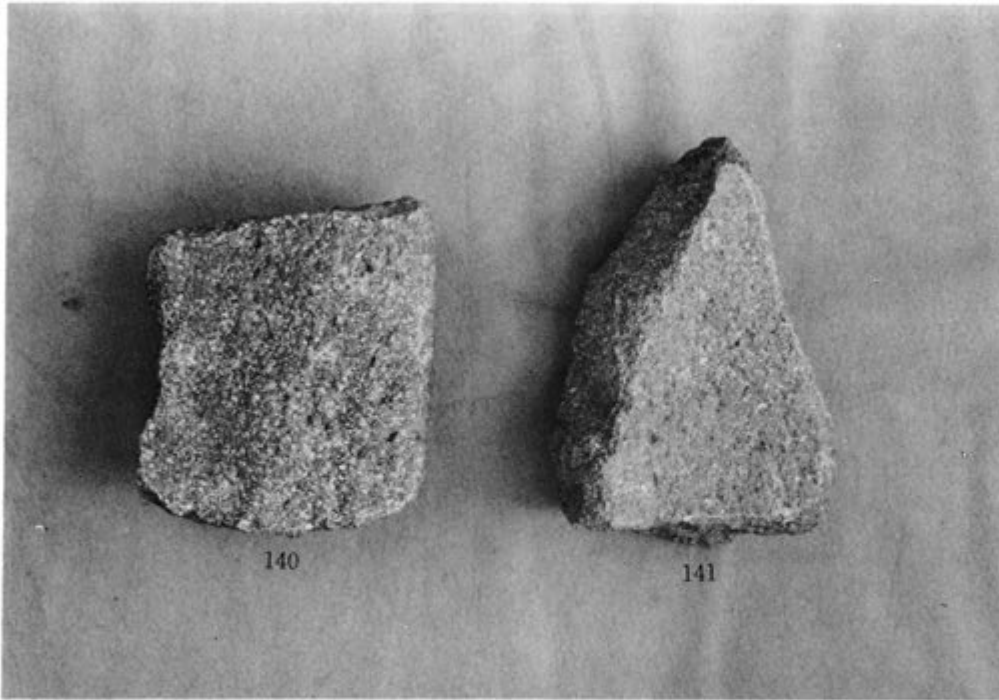
採集遺物 (一本松遺跡)



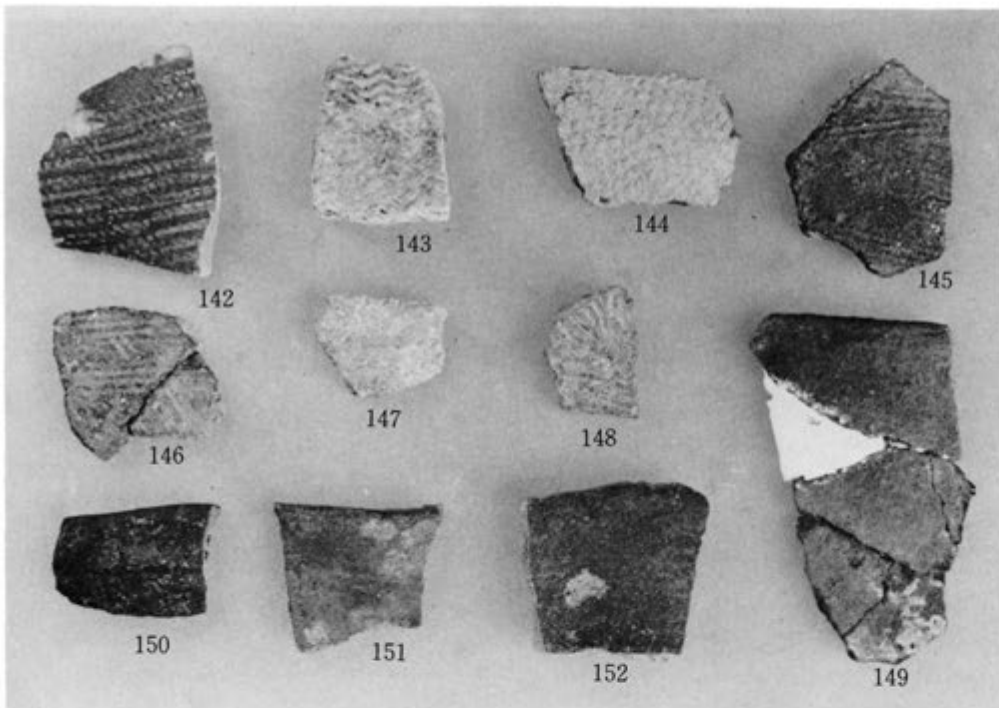
採集遺物（一本松遺跡）



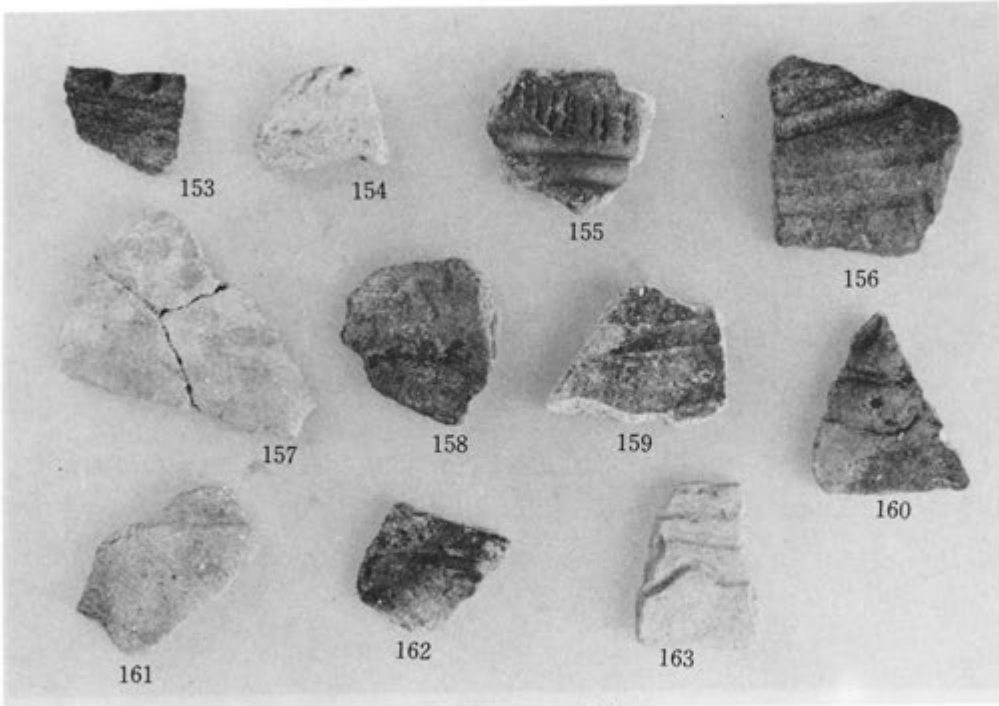
採集遺物（一本松遺跡）



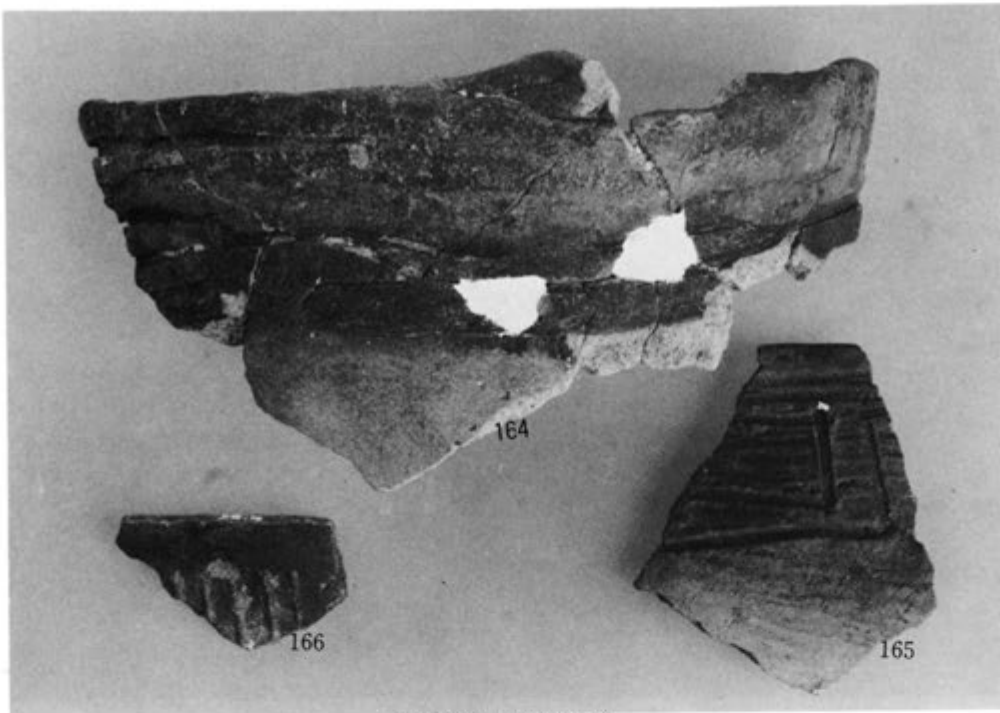
採集遺物 (一本松遺跡)



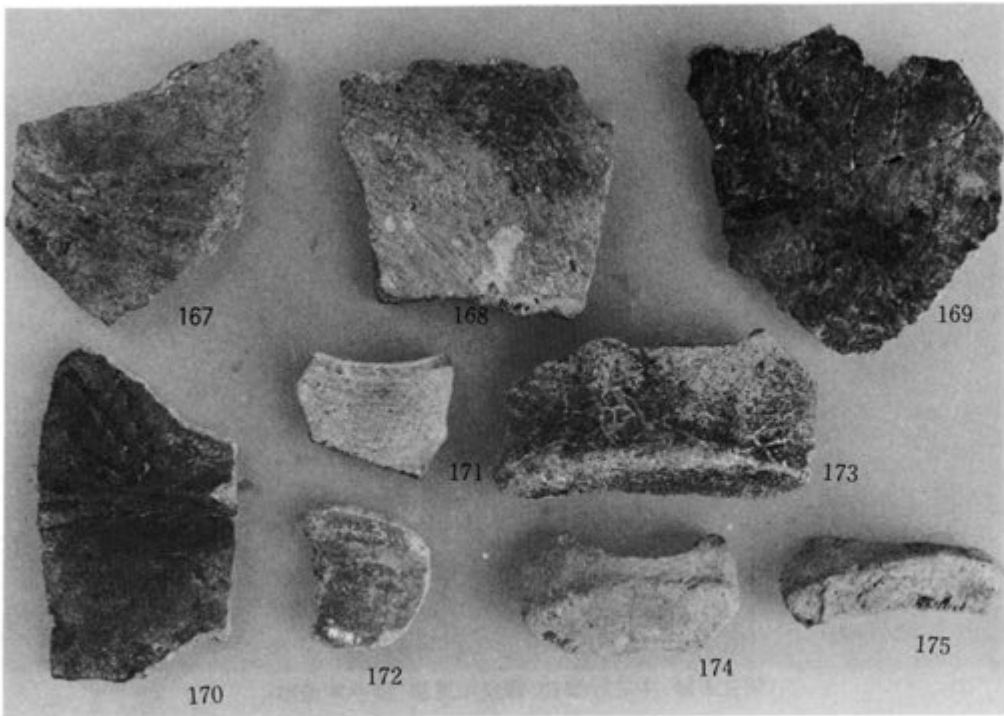
採集遺物 (一本松遺跡、馬越遺跡)



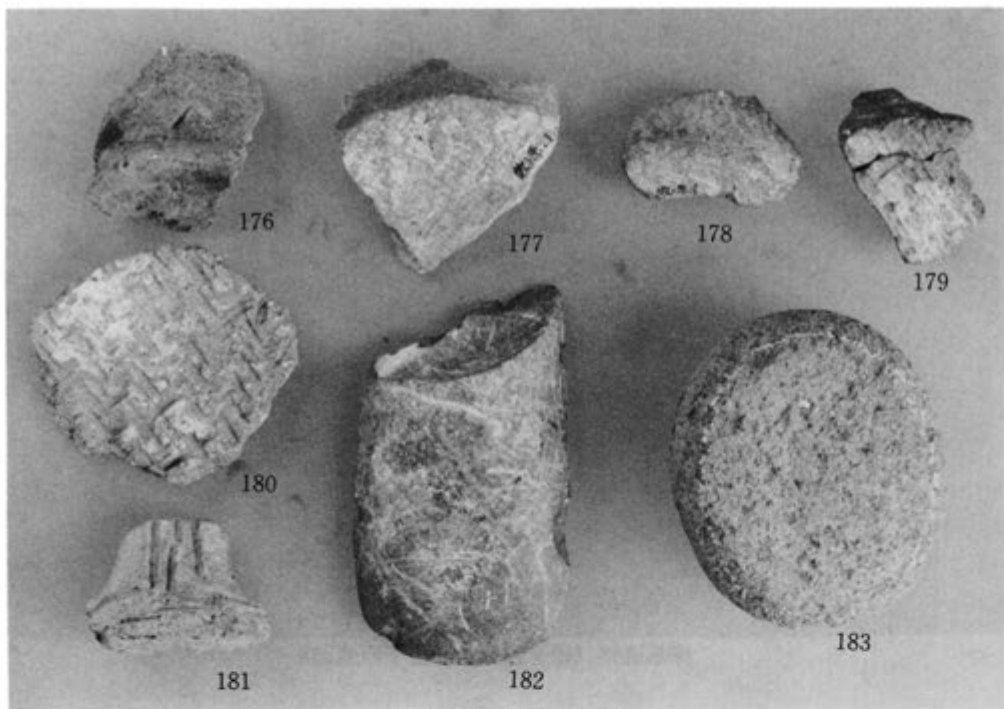
採集遺物 (馬越遺跡)



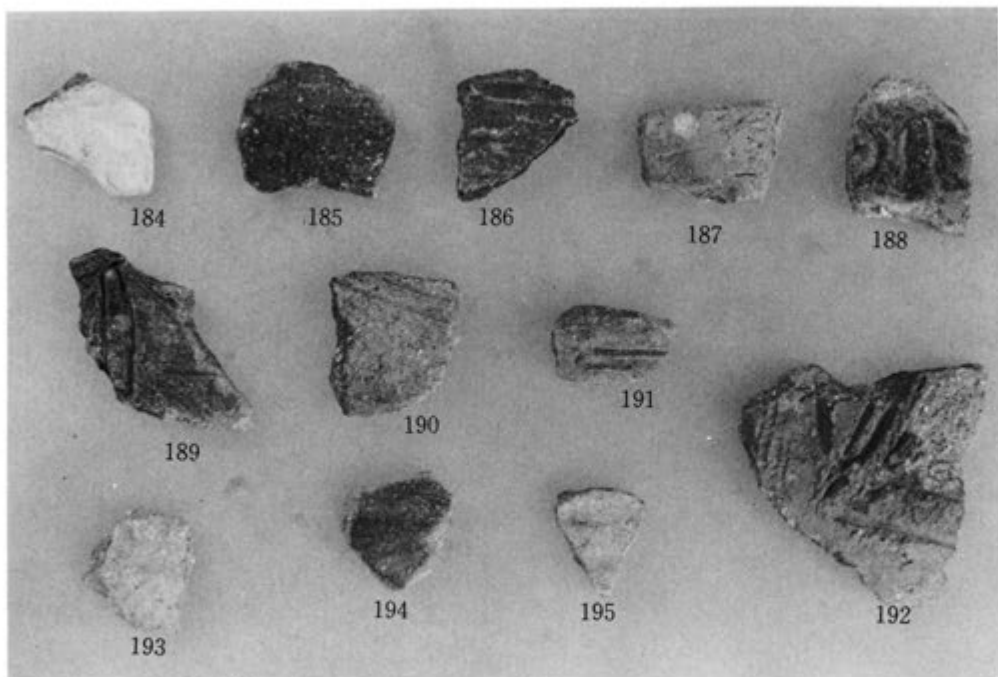
採集遺物 (馬越遺跡)



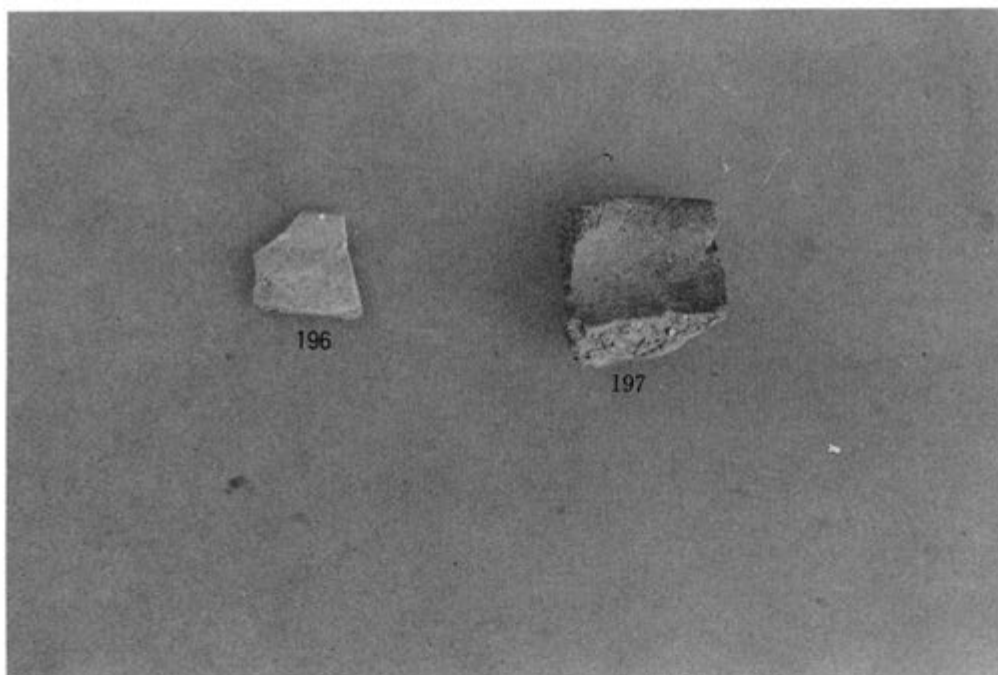
採集遺物 (馬越遺跡)



採集遺物 (馬越遺跡)



(柴立遺跡、中之段遺跡、諏訪段遺跡、持手木遺跡)



採集遺物 (松ヶ原遺跡、王子原遺跡)

**国分・隼人テクノポリス建設地区
埋蔵文化財分布調査報告書**

発行日 1985年 3月

発行 鹿児島県教育委員会

〒892 鹿児島市名山町14番50号

TEL 0992-26-8111(代)

印刷 有限会社 天野印刷所

〒890 鹿児島市田上町2965-1

TEL 0992-51-6276(代)